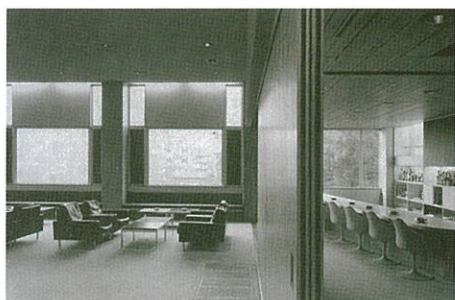


Bulletin 200

平成3年4月16日第三種郵便物許可 平成19年4月15日発行(隔月15日発行) 第20巻 第7号 通巻200号

2007年特集号

JIAをもっとよく知ろう！



↑ 建築家会館大ホール(左)と建築クラブ(右)
写真: 村井修



社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館

Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

写真: 森岡茂夫

目次

■支部長の活動＝伊平 則夫 — 3

■はじめに

1 本の赤いバラ＝櫻田 修三 — 4

JIA の歴史 — 4

建築職能団体の変遷 — 4

■委員会

総務委員会 — 4

JIA トーク実行委員会 — 4

アーバントリップ実行委員会 — 5

建築セミナー実行委員会 — 5

学生デザイン実行委員会 — 5

図面ライブラリー実行委員会 — 5

大学院修士設計展実行委員会 — 6

広報委員会 — 6

交流委員会 — 6

建築相談委員会 — 6

保存問題委員会 — 7

アーキテクツ・ガーデン実行委員会 — 7

顧客支援システム委員会 — 7

2011 年 UIA 東京準備委員会 — 7

■地域会

JIA 神奈川 — 8

JIA 千葉 — 8

JIA 埼玉 — 8

JIA 栃木クラブ — 9

JIA 群馬クラブ — 9

JIA 山梨クラブ — 9

JIA 長野県クラブ — 10

JIA 新潟クラブ — 10

JIA 中野クラブ — 10

JIA 三多摩地域会 — 11

JIA 杉並地域会 — 11

JIA 新宿地域会 — 11

JIA 城東地域会 — 12

JIA 文京地域会 — 12

JIA 渋谷地域会 — 12

世田谷地域会 — 13

JIA 千代田地域会 — 13

■部会

デザイン部会 — 13

都市デザイン部会 — 14

住宅部会 — 14

メンテナンス部会 — 14

住宅再生部会 — 14

情報開発部会 — 15

建築交流部会 — 15

■クラブ活動

ミケランジェロ会 — 15

ブリッジクラブ — 15

ワイン倶楽部 — 15

建築家写真倶楽部 — 22

■会員の声

新会員・堀内 雪 — 16

新会員・大塚 浩子 — 16

新会員・松永 基 — 16

新会員・保坂 猛 — 16

会員・渡辺 武信 — 17

会員・加藤 将己 — 17

賛助会員・青淵 隆督 — 17

新入賛助会員・井上 公二 — 17

■四役の声

四役の JIA 活動＝森 暢郎 — 18

意見交換の場＝野生司 義光 — 18

支部・地域会をプラットフォームに＝東條 隆郎 — 19

美しい日本の将来＝西勝 郁郎 — 19

まずなにによりも活動を＝森岡 茂夫 — 19

ミッション＝寺本 晰子 — 19

■JIA 館紹介

利用できる施設は？ — 20

事務局員の紹介 — 20

「ほっと、一息！」 — 20

■JIA のサービス

JIA のサービス — 21

JIA 会員用頒布書式、仕様書等 — 21

JIA レポート、他 書籍 — 21

■広報委員募集 — 22

■広告募集 — 22

■関東甲信越支部ホームページの紹介 — 23

■アーキテクツギャラリー — 23

■編集後記 — 23

■JIA 館はどこにあるの？ — 24 (裏表紙)

JIA 館ってどんな建物？ — 24 (裏表紙)

建築家会館

設計：進来廉

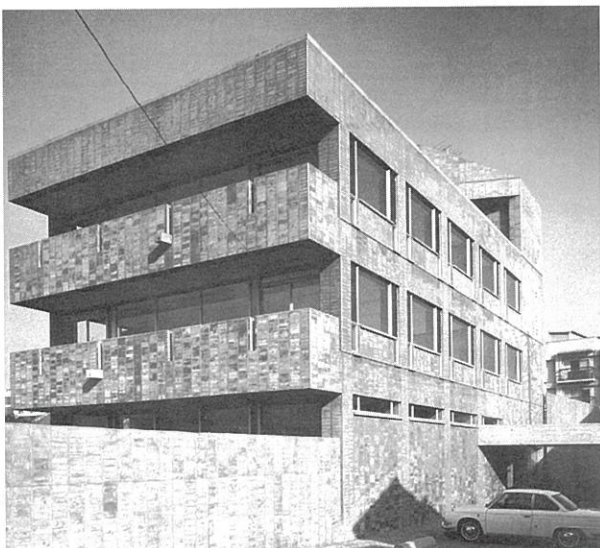
構造：鉄筋コンクリート造／地上 3 階（塔屋 1 階）

敷地面積：833.073 m²

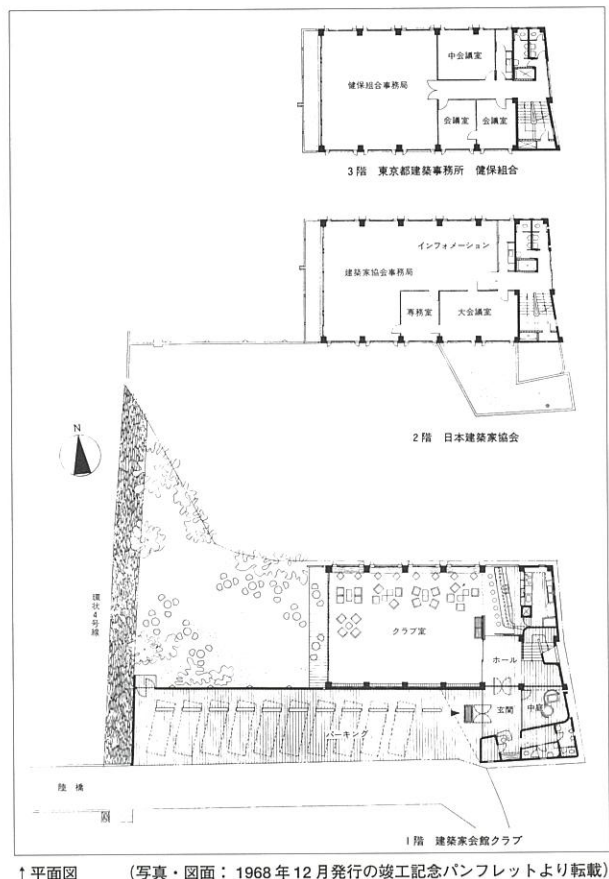
建築面積：310.360 m²

延床面積：814.610 m²

竣工年月：1968 年 12 月



↑ 建築家会館概観 (写真：村井修)



↑ 平面図 (写真・図面：1968 年 12 月発行の竣工記念パンフレットより転載)

支部長の活動



関東甲信越支部
支部長

伊平 則夫

支部長挨拶

2006 年度の関東甲信越支部における多様な活動が、
 どういう会員たちでどのように行なわれているかを、
 個々の顔が見える形で纏めるという主旨の Bulletin 特
 集号なので、今年度、新支部長としてこれまで主に行な
 ってきたことを概要で記します。

予算確保に明け暮れる

今年度の支部は前年と同じように始まりました。支部
 会員一人一万円の「緊急拠出金」が合計で 1800 万円集
 まれば、これまでの支部活動・運営が継続できるので、
 それを前提に 2006 年度の活動計画を組んであります。
 しかし JIA の財務体質が根本的に改善されたわけではな
 いので、正会員増強（総務委員会）と賛助会員増強（交
 流委員会）に特に力を入れてのスタートでした。今年度
 に入り直ちに財務再建検討委員会が立ち上げられ、本部、
 支部全体の財務を考えましたが、会費の見直しには踏み
 込めず、これまでの限られた会費収入を本部・支部でど
 う配分するかを見直したにとどまり、どの支部も過去 2
 年と同様な財務状況で 2007 年以降の運営を考えねばな
 りません。

関東甲信越支部の場合、これまでの活動を継続するた
 めには、どうしても 1000 万円以上の予算が不足します。
 支部の常任幹事会をはじめ様々なところで経費削減や活
 動の絞込みなど色々協議を重ねましたが、「これまでの
 活動を今後も継続すべし」との意見が圧倒的でした。検
 討の結果、昨年末の役員会で「支部活動支援金」導入を
 決定し、年が明けて 1 月に会員集会を開催して主旨を説
 明し意見交換を行ないました。2 月の臨時総会で「活動
 支援金」導入を審議していただきます。この原稿を書い
 ている今、その総会を前に緊張しています。臨時総会の
 結果を待って、急ぎ 2007 年度予算案の策定にかかる予
 定です。

20 周年記念建築家大会と UIA2011 東京大会へ向けて

JIA は今年、設立 20 周年を迎えます。その記念すべ
 き建築家大会 2007 東京の実行委員長を担っています。
 「環境の世紀と建築家」をテーマに 10 月中旬の 4 日間、
 東京国際フォーラムを主会場に開催します。大会式典は
 1500 人収容の C ホール、その晩のレセプションパーテ
 ィは別会場の東京會館ロズルームで開催の予定です。

昨年 7 月以来準備委員会で構想を練ってきましたが、奈
 良大会以降、本格的な準備段階に入りました。UIA 日
 本組織委員会での活動を参考にしながら、建築家大会も
 国際的で、他団体と一般の方々を大勢巻き込んだ、意義
 ある楽しい大会を目指しています。

昨年 9 月の ARCASIA（アルカシア；アジア建築家会議）北
 京大会に、関東の会員 12 名が参加して来ました。北京
 の古い路地「胡同」（フートン）に面した、伝統的な中庭
 形式の住宅「四合院」を改修した小さなホテルに投宿し
 て、ホテルからの出入りが少し不便でしたが、大会に参
 加、パーティに出席、建築視察ツアーではオリンピック
 施設の建設現場を回りました。空き時間を利用して歴史
 建築は勿論、最新の再開発センターを視察するなど積極
 的に歩き回りました。北京は埃っぽい都市でしたが、街
 路樹がとても豊かで歴史を感じる落ち着いた街でした。
 大通りから狭い胡同に一步足を踏み入れれば、静かで壁
 の向うに人々の生活が感じられ、ほっとしましたが、至
 る所で四合院住宅が解体されて瓦礫の山が見られ、古き
 良き北京がインターナショナルな再開発の波に飲み込ま
 れていくのは残念です。ARCASIA の経験を二つの大会
 に生かしたいと考えます。

支部委員会活動、地域会活動への参加

関東甲信越支部の総務委員会は会員情報のほか、支部
 総会や集会の運営を担うので積極的に参加しています。
 学生デザイン実行委員会は全国学生卒業設計コンクール
 の関係で委員の一人です。資金・活動両面で支援・協力
 いただいている賛助会員との交流活動にはもっと参加し
 たいと思います。2006 年、アーキテツガーデンでは、
 元環境大臣小池ゆり子氏の基調講演と、友人の武田洋平
 氏が登壇したのが私にとってニュースでした。私自身の
 勉強にもなりますので、委員会、地域会の活動には出来
 る限り参加するようにしています。それぞれの会の活動
 状況を肌で感じることができます。

そのような訳で

支部長は常任幹事会のサポートを得て、具体的な目
 的・目標のある委員会、地域会活動への支持・支援活動
 を行う立場という認識で活動しています。

〈(株)久米設計〉

1本の赤いバラ

Bulletin 編集長 櫻田 修三



2000年に、JIAに入会した。その年の11月に、「新入会員のつどい」が開かれ、横浜から電車で外苑前に向かい、地図を頼りにJIA館にたどり着いた。今思えば、ずいぶん遠くに感じられ、不慣れな場所も手伝い、何度も「途中で帰ろうか」と思ったほどであった。

やっとたどり着いた会場で、大勢の会員に迎えられ支部長から赤いバラを1本いただいた。最初は何だか恥ずかしい気もしたが、なんておしゃれな会なんだろうと思って感動したのを今でも鮮明に憶えている。誤解されないように、妻には「JIAでもらったんだよ」と話すのを忘れなかったが。

その時の新会員参加者は10名で、今でもJIAの名刺ホルダーのトップを飾っている。思えば、あの時の1本の赤いバラが、私のJIA活動の始まりであった。

2006年4月号のBulletinで特集を組んだ「JIAの未来：新会員は何を求めているか」の中で、森岡茂夫前広報委員長が指摘されているように、ほとんどの新会員は会報誌も支部サイトも見ているにもかかわらず、委員会・部会・地域会で活動している会員は3割しかいません。その原因の一つが、入会後のJIAの組織や活動についてのオリエンテーションの参加が極めて少ないということです。

そのあたりの課題に応えるべく、今回の特集号では「JIAをもっとよく知ろう」を編集テーマとしました。何かきっかけさえあれば活動に参加したいと思っている会員は多いのではないのでしょうか。ぶらっと気楽にJIAに立寄れるように敷居を低くしたい、そんな思いもあって「顔が見える特集号」を合言葉に誌面作りを心掛けました。アクティブ会員が一人でも増えてくれれば嬉しい限りです

〈企業組合創和設計〉

JIAの歴史

JIAは、今年で20周年を迎えます。

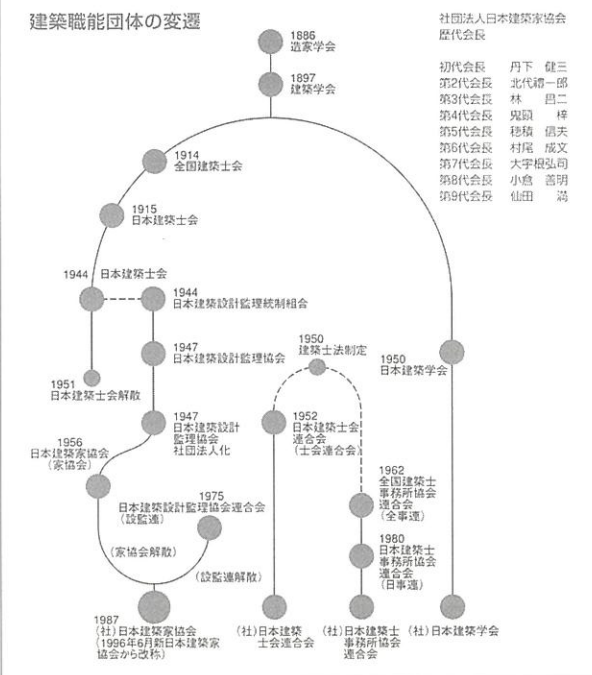
建築家の職能をわが国に定着させようと、新日本建築家協会JIAは、昭和62(1987)年5月に誕生し、平成8(1996)年6月に、日本建築家協会に名称を変更しました。日本建築家協会の原点である造家協会は、日本で最初の建築家団体であり、明治19(1886)年につくられましたから、そこからは120年の歴史をもつといえます。

設立の目的

JIAは、建築家の職能理念にもとづいて、建築家の資質の向上 および業務の進歩改善をはかります。また、建築物の質の向上及び建築文化の創造・発展に貢献し、公共の福祉増進に寄与することを目的としています。

(※詳しくは、本部ホームページ参照)

建築職能団体の変遷



総務委員会

委員長：星田 真人

連絡先：Tel/Fax: 045-912-5997

E-mail:

xymasato_hoshida@piano.ocn.ne.jp

会合：月1回(その都度設定)

■活動概要

総務委員会の活動は多岐にわたっております。関東甲信越支部の最高決議機関である総会の事前準備や円滑な運営を行なうことや、支部の基となる定款他諸規定について必要に応じ見直しの検討も役割のひとつです。また予算配分の調整や確認を行ないます。

また、会員と支部活動とを結びつけることや、会員相互の親睦の場をつくることも重要な役割です。会員の意見を聞き質問に答える「会員集会」の開催や、会員皆様の親睦の場として新年に催される「新春の集い」、新会員にJIA活動紹介と会員相互の紹介を行なう「新会員の集い」の開催も行なっております。そして、総務委員会の重要な役割として、会員の「入退会審査」を行なっております。近年においては、JIAの全体に関わる重要課題として「会員増強活動」を展開しております。

■勧誘メッセージ

JIAは、会員一人ひとりが建築家の職能理念にもとづいて、建築家の資質向上と業務の進歩改善を図ることを目的として、自主的かつ自治的に遵守することにより、社会や依頼者に対してその履行を約しております。あなたはJIA活動に参加することにより、志を同じくする仲間とふれあい、共通の目的のもとに活動を行ない、社会に対して建築家としてのメッセージ性を高めることとなります。総務委員会はそのような中で、親睦融和を旨とし和気藹々と月一の会合と親睦を図っております。どうぞお気軽にお声をかけて参加してください。

JIA トーク実行委員会

委員長：大野 二郎

会合：原則月1回(第2水曜日予定)

連絡先：JIA トーク事務局(担当：北澤)

Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

E-mail: talk@jia.or.jp

■活動概要

JIA トーク実行委員会は、前身の(旧)日本建築家協会時代により始まり、新日本建築家協会時代も継続して実施され、現在に至るまで30年間にわたって文化的教養の高い講演会の企画運営を行なっています。会員建築家のみならず一般社会人に広く呼びかけ、会員には専門分野以外の素養を高め、会員外には建築文化やJIAをアピールし、相互の交流の場となる講演会の開催を目的としています。2006年度は、第1回5/10(水)「北大路魯山人先生にお仕えして」辻 義一(辻留主人)、第2回6/14(水)「人形と日本文化」井上章一(歴史学者・評論家)、第3回9/27(水)「高丘親王航海記」を刷る 橋都浩平(イタリア研究会運営委員長、東京西徳洲会病院総長)、第4回12/13(水)「好きの感覚」島田恭子(陶芸家)さんをお招きしました。また、昨年度からは少人数の気軽なJIA ミニトークも開催しています。第1回6/22(木)「インドのコレージュ」堀 啓二(建築家)。第2回「西沢文隆の実測」金澤良春(建築家)。第3回11/8(水)「現代の雑木の庭」平井孝幸(石正園代表)。(今年度の実行委員は、大野二郎、陶器二三雄、竹内裕二、片山和俊、松本哲夫、深谷基弘、渡部和生、村上晶子、平倉直子。また相談役は、矢道恒信、上浪 恒、山岡嘉弥、満田潤子、小倉 浩、です。)ご興味のある方は、事務局または実行委員長にご連絡ください。メーリングリストを整備中です、是非ご参加ください。

(大野二郎/株)日本設計

アーバントリップ実行委員会

委員長：倉田 充

連絡先：

Tel: 03-5632-7811 Fax: 03-5632-7830

E-mail: mitsuru.kurata@kumesekei.co.jp

会合：月1回（原則第3水曜日）

■活動概要

「世田谷のよくある住宅地の風景、突如、ライト設計の邸宅が現れた。中に入っていく。その当時の雰囲気があるまま残っていて異次元の感覚だ。通常、専門家にも開放しない歴史的建築を見て聞いて体感できた。」（第40回・2002年秋）

「雪の中、房総半島の山深い場所にある小さな美術館を訪ねた。普通では行く機会のない環境へ行けた。」（第47回・2005年早春）

このように、当委員会では、東京ガス株式会社の後援のもとで、「プロフェッショナルとして学び、各々の創造性構築の参考となる機会を設ける」を基本姿勢として様々な切り口で見学会を企画しています。

また、見学会の一番の特徴は、「丸1日建築の勉強づくめ」となるところです。朝9時から夕方18時過ぎまで、移動中のバスの中でも研修します。日常の仕事の雑音が入ることのない、ある意味学生時代にもどれる時間をつくります。

■勧誘メッセージ

自分が見たい、知りたい、興味がある建築・都市・環境・話題を自ら企画できます。毎回、担当コーディネーターを決め、委員全員でアイデアを出し合い企画を考えていきます。また、月1回のワーキング自体が、情報交換、スキルアップなどの勉強会となっています。そして、委員OBを交えた委員会独自の見学会も開催しています。是非御参加ください。

＜倉田充／(株)久米設計＞



学生デザイン実行委員会

委員長：上西 明

連絡先：JIA事務局・菊地良一 info@jia-kanto.org

会合：月1回

現在のメンバー数：14名

■「東京都学生卒業設計コンクール」

私たちの実行委員会は、「東京都学生卒業設計コンクール」の主催をメインの活動としています。「東京都学生卒業設計コンクール」は、2006年度で第15回目を迎えました。公開審査会は、毎年6月に、工学院大学新宿キャンパスのアトリウムを会場にして行なわれています。昨年度も、都内21大学から46の卒業設計の図面、模型が出品されました。公開審査は、多数の学生が集まる中、審査員に建築家の長谷川逸子氏、伊平則夫氏、中村勉氏、阿部仁史氏、構造家の佐々木睦朗氏を迎え、さまざまなテーマの下に展開する作品に対して、多様な視点での評価を頂きました。賞は、合議による金賞、銀賞、銅賞に加えて、審査員各自が独自の視点で選ぶ審査委員特別賞を設けています。毎年の結果は、JIA ホームページで見ることができます。JIA ホームページ＞関東甲信越支部＞学生デザイン実行委員会でご覧ください。

■実行委員会の活動

実行委員会の活動は、より良いコンクールになることを目指し、審査員の人選から、コンクール、展示会の準備、冊子作成など多岐に渡ります。実行委員が、構想立案から力仕事まで、それぞれ得意分野を生かしながら、学生の図面、模型や、公開審査会での応答に多くの刺激を受けながら、楽しく進めています。

＜上西明／(株)建築都市設計事務所＞

→コンクール公開審査会



建築セミナー実行委員会

委員長：大野 秀敏

入会希望者の連絡先：

Tel: 090-3815-5304 Fax: 03-3816-4249

E-mail: ohno@k.u-tokyo.ac.jp

■活動概要

建築セミナーは若い会員に提供する自己啓発プログラムで28年の伝統を誇っています。長い歴史をきざむことができたのも各時代に合わせて自己変革してきたからです。最近では内藤廣氏はレクチャー型とスタジオ型の組み合わせで運営し、北山恒氏はスタジオ式に変え、いわばデザイン学校の実験的試みをしました。昨年より舵取りを任されて、受講生の負担を幾分軽めしつつ、スタジオ制を引き継ぎました。昨年は4スタジオで、建築企画の織山和久、建築計画学の小野田泰明／本江正茂、アーバンスケープアーキテクトの韓垂由美、建築家の萩原剛の5氏4グループに数回ずつ持っていただきました。スタジオ編成の意図は、建築のプロジェクトが多様化し職能観が変化する今日の最先端を覗いて、鍛えてもらおうというもので、タイトルも「建築の未来はナマヤサシクナイ」と挑発的です。受講生には大変好評でしたが、シリーズで続くスタジオを継続するのは本務も激務である若い人には大変のようで受講生の数という点では問題が残りました。

今年は、刺激的な内容をより広く多くの会員に楽しんでいただける様に改良します。まず、一回で完結でき参加者の都合に会わせて出席できる様に構成を変え、内容も若手所員が日々遭遇している建築の実務の問題を鋭い切り口で俎上に載せたいと思います。また、実作の見学も折り込みたいと思います。是非多くの方々の参加を期待しています。

＜大野秀敏／東京大学工学部＞



↑建築セミナー受講風景

図面ライブラリー実行委員会

委員長：渡邊 嘉雄

連絡先：Tel: 03-5325-8856 Fax: 03-5325-8957

E-mail: watanabe-y@nihonsekkei.co.jp

会合：月1回程度



■建築の創造活動の原点である「建築に係わる図面」を中心に据え話題を作りながら様々な委員会活動を行なっています。建築家の考えの全てを盛り込んだ建築を正確に造る最も有効な手段である「設計図面」とは、図面を見ることにより誰もが、その図面に書き込まれた建築の設計内容が「正確に読み取ることが出来」「技術的な裏付けを担保検証することが出来」「正確に伝達する手段となり」「間違いなく実際の建築をつくる」ことができないてはならない使命を担うのが「建築図面」です。

建築設計シーンの各段階でさまざまな試みられる「スケッチやエスキス」など設計図に限らず建築設計の手段は設計者の個性を反映したさまざまなやり方があると思います、それら創造する手段である「図面」をとうして建築家の業績や実際に建つ建築を見てゆく機会を企画したり、展示会などを開催することを当委員会では行なってきました。また図面に限らず建築家にとって有用なさまざまな周辺ツールとも呼ぶ話題を取り上げ、ゼミや講演会などを会員向けセミナーとして行ってきました。「設計に役立つ建築模型の作り方」「上手な建築写真の撮り方」「写真の加工プレゼンのしかた」などこれからも興味のある話題を取り上げながら企画してゆきます。

これから本部活動として始まる「JIA アーカイブス」事業とも連携しながら、広く会員の意向などを取り入れながら話題性のあるイベントなども企画してゆきたいと思っています。

＜渡邊嘉雄／(株)日本設計＞

大学院修士設計展実行委員会

委員長：坪山 幸王

入会希望者の連絡先：Tel & Fax：047-469-5419

E-mail：tuboyama@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

会合：年4回（4月・7月・11月・1月）程度

開催月の第2水曜日／現在のメンバー数：7名

■活動概要

近年、大学における建築教育からさらに高度な専門教育を求めて大学院（修士）への進学が増えています。一方で、受け入れ側の建築系大学院の各専攻では大学院修士時に提出する修士論文に替えて修士設計の提出を認める専攻が漸増しております。また、修士論文には建築学会の表彰制度がありますが、この修士設計には一般に公開する場が設けられておりません。当実行委員会では、修士設計を提出する院生が、将来、建築家としてJIAのメンバーになることを期待し、後進育成の事業の一環として修士設計を支援する立場から、関東甲信越支部における修士設計展を2003年から実施し、本年で第5回目を迎え、作品数も20余点（15専攻）と定着しつつあります。しかし、各大学院専攻により提出物の内容・図面などに差があり、評価軸の相違もあることから当面はコンクール形式とはならず、優秀作品を募り展示することにしております。展示方法は出展者の作成したデジタルデータを支部のホームページに掲載する方法を採っており、その制作費などは出展された各大学院専攻に経費の負担をお願いしております。

■勧誘メッセージ

大学院生の作品には、現代の若者が社会情勢・環境条件の中で、どのような問題意識を持ち、どんな構想を描こうとしているのかが秘められていると思われます。この新しい試みに興味のある方は是非ご参加ください。



〈若色峰郎〉

交流委員会

委員長：木村 年男

連絡先：JIA事務局

会合：幹事会：年7回／拡大幹事会：3回、

グループ会議：月1回／その他委員会、部会議あり

メンバー数：正会員26名、賛助会員238社（2006年4月現在）

■活動概要

関東甲信越支部交流委員会は、支部の正会員26名と賛助会員238社（2006年4月現在）がパートナーとして、技術や情報の交流を通して相互研鑽し、建築技術ならびに建築物の質の向上発展を目指すことを目的とする委員会です。

賛助会員は業種ごとに7（A～G）のグループに編成され、独立したグループ活動を基盤に、全体としての交流委員会活動を幹事会、拡大幹事会のもと、下記実行委員会・部会により推進され、支部行事への積極的な参加も行なっております。

- ・フレンズカップ大会実行委員会：年1回秋に開催
- ・交流セミナー実行委員会：年2回話題性のある内容で開催
- ・交流大会実行委員会：セミナーと併設し全体会議として開催
- ・広報部会：独自ホームページの編纂とBulletinへの寄稿

賛助会員制度は、技術情報交流という活動目的のほかに、支部財政に大きく貢献していることは周知の通りです。しかし、厳しい社会情勢の中、賛助会員企業数はわずかではありますが減少の傾向にあり、賛助会員の視点からすると現状では技術情報の相互交流という意味からはまだまだ満足できる状況ではありません。賛助会員の交流委員会活動枠からの脱却や、より多くの正会員の委員会への参加が求められています。

実際のグループ毎の活動は小セミナーや見学会など楽しく魅力的なアイテムが沢山あります。是非参加ください。

〈木村年男／(株)梓設計〉

広報委員会

委員長：中村 高淑

連絡先：JIA 関東甲信越支部事務局 菊地

(info@jia-kanto.org) 03-3408-8291

広報委員長 中村 (koho@jia-kanto.org) 045-978-4335

会合：月1回（第2水曜日）、他にWG月1回

現在のメンバー数：14名

■活動紹介

支部の広報を担当する委員会です。会報誌「Bulletin」と「Webサイト」を通して、支部や地域会の動向の他にマスメディアには表われない会員、賛助会員の優れた仕事や活動を紹介しています。今後は広く社会に向けた情報発信の整備と充実、本部支部地域会間の連携強化を図っていききたいと考えています。主な活動を紹介いたします。

会員による会員のための「Bulletin」の発行

「Bulletin」は支部の動きを会員に伝えるだけでなく、会員自身が自由に発言できる会報誌です。発行部数は3000部、2006年度は6刊＋特別号1刊を発行しました。

「Webサイト」の運営

会員向け「JIA日本建築家協会 関東甲信越支部」と、社会に向けて情報を発信する「建築家online」の二つのサイトを運営しています。会員向けメールマガジンも発行しています。（支部サイトにてメルマガ配信登録をお願いします）

■勧誘メッセージ

2007年度はJIA 20周年大会、2011年にはUIA東京大会と大きなイベントが控えています。これらを盛り上げるためにも広報の充実が必要不可欠です。興味のある方、自薦他薦は問いません、ぜひ仲間に入りませんか？ 明るく楽しい委員会です。

〈中村高淑建築設計事務所〉



建築相談委員会

委員長：阿部 一尋

連絡先：JIA事務局 Tel: 03-3401-6281

Fax: 03-3401-8010

E-mail: k-abe@ichiura.co.jp

会合：月1回（第1木曜日）

■活動概要

建築相談委員会の下に、東京を中心とする首都圏建築相談室と神奈川や埼玉、千葉など各地域会の相談室が活動している。これらの建築相談は社会に対する建築家個人の奉仕活動が基本である。JIAの「建築物の質の向上および建築文化の創造・発展に貢献」という使命を實踐し、人々の共感と理解を得ることを目的としている。同時に市民の相談に応じ、建築に関わる種々の問題の解決に努めるという奉仕活動を通じて、安全で安心できる快適な環境を作ることを目指している。

現在、首都圏建築相談室員は37名（神奈川17名、埼玉13名、千葉5名、群馬14名）で、ローテーションを組んで市民を対象にした無料相談を毎週3回開催している。会場はJIA館の他、住宅金融普及協会（江戸川橋）、東京電力・電力館（渋谷）で、相談時間は一件当たり50分である。毎月1回全員で報告会を行ない、各相談員が受けた相談内容やその対応について情報交換をし、スキルの向上に努めている。

■勧誘メッセージ

建築相談は苦勞も多いが、やりがいのある仕事である。世の中には欠陥住宅や訪問販売詐欺など、建築に関わる様々な問題があることを知る。それを解決することが喜びとなるとともに、設計者としても大変勉強になることが多い。あなたも私達と一緒に相談に参加しよう。今まで見えなかったものが見えてくる。

〈関 洋之／首都圏建築相談室長〉



保存問題委員会

委員長：保存問題委員会委員長
連絡先：JIA 事務局・清宮美津江

Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

E-mail: mkiyomiya@jia.or.jp

会合：毎月 1 回

現在のメンバー数：15 名（メンバー）+ 15 名（WG）

■関東甲信越支部保存問題委員会は設立以来 18 年となりメンバーは 1 都 9 県から集まった約 15 名とそれをアシストするワーキンググループ 15 名程で活動しています。我々は新しい建築を造る行為を通して社会に貢献する役割である一方かつて造られた建物が健全に維持され、使い続けられるべきであると考えています。つまり創造と保存とは同義であると考え、主に保存に軸足を置いて活動しています。委員会活動は主に三つの大きな柱があります。1. 保存要望書の提出 2. 建物の価値を共有するためのシンポジウムの開催 3. 保存すべき建物を中心とした町並みウォッチング。それらの活動の発表の場として毎年一回各地域もちまわりで地域大会を開いています。今では市民や文化人、メディアを含め参加メンバーも大幅に増えました。それらの交流は我々自身にも古いものを通して豊かな心や技を再認識させ、また新たなデザインの宝庫とも思えます。とは言え保存すべき建物はどんどん失われ、我々はいわば記憶喪失の中で方向性を見失ってうごめいているのが現実です。当委員会は保存運動こそできませんが、市民と情報を共有しあい共に保存問題を考えていくことが使命であると思います。今は保存物件も情報も増え、緊急かつ深刻な問題が山積みの状況です。とても現メンバーだけでは対応できません。是非、各地域から多くの諸氏に参加して頂きその使命感とやりがいを実感することをお勧めします。

〈川上恵一／(有)かわかみ建築設計〉



↑ 16 回保存問題東京大会、東京大学キャンパス見学にて

顧客支援システム委員会

委員長：左 知子

連絡先：JIA 事務局

Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

E-mail: abcdefg@hijklmn.op

会合：月 1 回／現在委員数：7 人

■委員会のミッション

顧客支援システムは、一般市民と建築家を結ぶシステムです。JIA の立場で行なうことに重要なポイントがあり、世の中の営利を目的とした紹介組織とは一線を画したものです。逆のことを言えば、市民の建築界への不安・不信に応えられる場をつくるという、広義のシステムにならなければいけないということです。建築家の果たす役目、など、応募登録された会員の実践を通じて、市民に理解を深めていただくという地道な活動でもあります。2 年間の検討を経て積極的な社会活動のための一歩でもあると考えています。市民の方からは、強い期待の声が上がっていますので、当初は住宅が対象ですが、その後に福祉関係、教育関係と対象範囲を広げる予定になっています。いずれにしても委員会は、一般市民へのそして会員の皆様の「こころざし」のサポートとして活動するものであることに間違いはありません。

■勧誘メッセージ

現在 7 人のメンバーで活動しておりますが、そのほとんどが住宅を主とする業務活動の会員です。今まではこのメンバーの実績が大いに効果を発揮したのですが、今後他の対象種別を検討していく時には、住宅以外の建物の経験豊富な方、そしてこころざしの大きな方が求められておりますので、我こそと名乗り上げてくださる方を歓迎したいと思います。〈左知子／(有)左知子建築設計室〉



↑顧客支援システム案内のチラシ

アーキテツ・ガーデン実行委員会

委員長：上浪 寛

連絡先：E-mail: yuta@kosoweb.com (uenami yutaka)

■活動概要

建築家の活動や考え方を市民に伝え広めるアーキテツ・ガーデン建築祭は、毎年テーマを決めて委員会、部会、地域会の会員・賛助会員を中心に展示・セミナーを催し、JIA の活動を広く一般にアピールする活動を展開しています。1999 年以降、銀座をメイン会場として、地元中央区や銀座商店会（全銀座会）の後援を得、地元イベントとも連携しながら緊密な関係を築くまでに至っています。また 2 年前より東京での地域会が多数立ち上がり、東京でも活発な地域活動が始まっています。そのため 2008 年以降は委員会・部会に加え、地域会を中心とした JIA 関東甲信越支部の顔となるイベントとなります。テーマに沿って参加するグループ間の調整、会場の手配、ポスター・チラシの作成などを通して多数の JIA 会員・賛助会員と交流できる、達成感のある活動が本実行委員会のミッションです。

■勧誘メッセージ

2007 年は JIA 20 周年記念大会が東京で開催されるため、プログラムが大会の一部となりますが、2008 年以降は 2011 年 UIA 東京大会へ繋げる活動になりますので、今後中心となって活動して頂ける意欲ある若い会員の参加を募集しています。少し汗はかきますが、普段会わない建築家仲間と一緒に活動できる達成感のある委員会です。

〈上浪寛／(株)構想建築設計研究所〉



↑アーキテツ・ガーデン 2006 基調講演（内閣総理大臣補佐官小池百合子氏、野沢正光氏、武田洋平氏のご講演をいただきました。）

2011 年 UIA 東京大会関東甲信越支部準備委員会

委員長：上浪 寛

連絡先：yuta@kosoweb.com/ (uenami yutaka)

会合：月 1 ～ 2 回／委員数：8 人

■活動概要

2011 年に UIA（国際建築家連合）大会が東京で開催されます。世界中から 1 万人に及ぶ建築家が東京に集まる見込みで、国土交通省、建築 5 団体を中心とした UIA 2011 東京大会日本組織委員会（JOB）が昨年正式に発足しました。今年に入りワーキング部会（財務、学術、運営、広報、Forum Japan）の活動が始まり、年内を目標に大会の骨子を固めているところです。なるべく多くの会員・賛助会員に大会に参加してもらい、委員会・部会・地域会への伝達のみならず、提案・意見を大会実行委員会活動に反映し全員参加の大会とする計画です。本準備委員会は支部委員会・部会・地域会の皆さんと UIA 東京大会に向けた準備活動をするというミッションを帯びています。特に各県地域会へは足を運んで話し合う機会を設け、会員への周知を計画しています。いずれは支部会員・賛助会員の大会全員参加を目指していきたいと考えています。

↑上写真—2006 年アルカシア北京大会（アジア建築家連合大会）にて

■勧誘メッセージ

2005 年は UIA イスタンブール大会、2006 年はアルカシア北京大会が開催され、本委員会委員が参加し、異文化建築家の若い息吹を直に感じる機会を得ました。世界の建築家大会に参加しながらその経験を生かし、委員会・部会・地域会の皆さんと UIA 東京大会に向けた準備活動に参加してみませんか。2008 年 6 月には UIA トリノ大会が開催され、本委員会も参加予定です。特に若くて意欲のある新人会員の参加をお待ちしています。



JIA 神奈川

代表：室伏 次郎

連絡先：横浜市中区南仲通 4-43 馬車道大津ビル 201

Tel: 045-663-2745 Fax: 045-663-2746

E-mail: jiakana@beige.ocn.jp

http://www.jia-kanato.org/kanagawa

会合：毎月第2火曜日

■2年前、当時の会費規定の改訂とともに、協会改革の一端として会員増強のキャンペーンがあり、神奈川地域会でも、強気に運動しました。

神奈川地域会はそれまでに会員規模も150名強の規模があり、活動も活発で協会内での存在感のある業績をもつものであったと思います。しかしながら年齢層の高所安定型を呈していることは否めないところでもありました。そこに風穴をあける事を目指してメンバーの勢力的働きかけで幸い40余名の新しい入会者を迎えることができました。早速に新人作品展をもって新しい風を紹介し好



評を得ることができました。また委員会活動に新規会員の積極的参加を得て各事業現場は活気を呈しています。特に外部者である若い建築学生（会員予備軍）の参加が目に見えて増え、企画の刷新の効果は著しいものがあります。また古参メンバーと組んで本部活動に参加し、評価を受けていることも在ります。

さらに「神奈川建築コンクール」に多くの新規会員が応募し、コンクールそのものの活性化に寄与していますが、入選者が覇出し協会の名誉に大いに貢献することとなっています。また入選者には「卒業設計コンクール」の審査委員をお願いしここでも会員予備軍とのコンタクト強化に力を発揮してくれています。

多くの新規会員の参入によるベテラン会員と若年新規会員の協働のバランスがこれからの会の活動に極めて大切であり、「神奈川地域会」にはその軌道が出来つつあり、さらなる活発化を目指したいと思っています。 **〈室伏次郎/スタジオ アルテック〉**

■委員会構成：総務委員会／事業委員会／まちづくり委員会
職能委員会／資格制度委員会／大規模災害対策委員会
建築相談室／広報委員会

←2007年新春の集いでの新会員の紹介

JIA 千葉

代表：岡田 成和

事務局：千葉県千葉市中央区中央 4-8-5 建築会館 5 階

Tel: 043-225-7881 Fax: 043-227-7867

E-mail: csa@ceres.ocn.ne.jp

http://www.chiba-kentikuka.jp

会合：毎月第3(4)木曜日

会員数：104名／事務所会員数：47社／賛助会員数：47社
(104名の内訳：JASCAの会員やJIA退会者など、JIAに登録していない人数が1割程度)

■活動概要

JIA千葉の会員であれば自動的に、別組織ですが「千葉県建築家協会」の会員となることができ、一体となつて活動しています。JIA個人会員をベースに、事務所を主宰するJIA会員の事務所、メーカーなどの賛助会員によって構成されています。また、千葉県下の建築設計他団体との共同事業も盛んに行ない、交流や情報の交換なども積極的に行なっています。

例年行なわれる活動として、千葉県下大学・高校の卒業設計展



(他団体と共催)、「百科シリーズ」と称する講習会をはじめその他の講習会・研修会・見学会、リレートーク、まちなみウォッチング(共催)、国内1泊の研修旅行(毎年)、ヨーロッパ海外研修旅行(隔年)、ゴルフコンペ(現在通算142回)などを行なっています。また、他団体と共同で立ち上げている事業として、耐震判定協議会、建築団体と弁護士会とで建築相談協議会を設立し、定期的に研修会を行なっています。

さらに、行政と建築団体との連絡協議会は通算140回目を数えています。

建築家としての職能を社会から認めてもらうには、その職能団体を認めてもらうことが最も重要であると考えます。地方においては、建築家個人と事務所の主催者とがイコールの場合が非常に多い。JIA千葉+千葉県建築家協会は、個人会員の中に会員事務所を内包した姿になっています。つまり、設計監理を専業としている建築家個人であり、設計事務所でもあるということです。

〈岡田成和/(株)岡田建築計画事務所〉

■委員会構成——総務委員会／会員委員会／事業委員会
業務委員会／広報委員会／構造委員会／建築相談委員会

JIA 埼玉

代表：三浦 清史

連絡先：埼玉県川越市松江町 2-11-11-204

Tel/Fax: 049-226-8915

E-mail: jimukyoku@jia-saitama.org

会合：月1回(第1金曜日)



↑浦和郊外別所沼公園内
ヒアシンズハウスでの会合

■活動概要

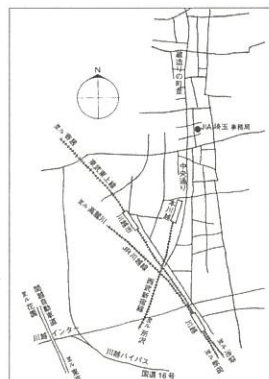
理事が交替で議長を務め、議長は思いのまま企画し担当期間の理事会を運営する、私たちはこのような合議制を試行しています。「全体があつて個がある」テクノロジーの世界観から、「個があつて全体がある」エコロジーの世界観へとパラダイムシフトが起こりつつある今、前者の世界観で絶対的正しいの代行という倫理で成立する欧米的建築家像も変わろうとしています。それなら建築家の組織運営にもエコロジカルな仕組みが必要だと考えたからです。

県内で住まいや街づくりをテーマに活動する団体が集まって開催する「交流展」への参加は当地域会の主要な活動の一つです。ここでの交流を通して、今、埼玉で歴史文化遺産活用推進(ヘリ

テージマネジメント)とその推進員の養成をめざした勉強会を模索しています。歴史的建造物の利活用にあたっては、そのストックの減少、修復市場の未成熟と乱開発、専門的な知識不足と独善的な価値の強要等々、多くの問題が山積しています。その現況に建築家は印象批評的な接し方ではなく、即物的に立向える力を身につけるべきだと思います。印刷に筆を入れた偽物の掛け軸を作るような保存修復を批判し、割れた茶碗の価値を認めたら樹脂ではなく金と漆で接ぐ、このような姿勢で伝統に対峙し、街づくりに向いたい、こんなことを考えている地域会です。県の内外、また専門家に限らず、活動を共にする協力会員制度も発足しました。ご興味のある方、ぜひご連絡ください。

〈三浦清史

/こうだ建築設計事務所〉



JIA 栃木クラブ

代表：藤原 宏史

事務局：(社)栃木県建築士会内 長島 紀子

Tel: 028-639-6150 Fax: 028-639-3160

E-mail: nagashima@tochigi-kenchikushikai.or.jp

会合：1回/2ヶ月（偶数月、第1木曜日）

■活動概要

現在22名。曰く「アットホームに、サロンのごとく」です。メンバーの増加は悲願ですが、「JIAの掲げる主旨に賛同して」は、会費以上にハードルは高いようです。そんなマンパワー不足から、対社会活動は、建築を目指す学生を重点にしています。「栃木クラブ賞」昭和59年にスタート、今年で23回を数えます。全国に先がけの催しです。宇都宮大学、小山高専、足利工業大学の推薦に加え、公募および公開審査会の実施と発展しています。

「スクールin那須」上記の在校生を対象に1泊2日の合宿を初夏に開催しています。学生同士の対話を主体に、メンバーがオブザーバーとして加わります。那須の地、ワイン、そしてステーキを潤滑油として老若男女が夜遅くまで盛り上がる宴です。

「秋の見学会」メンバーの交流、研鑽として実施していましたが、学生を加えて実施しています。著名な作品を肴に、学生、建築家が感想を論じ合うツアーです。その視点の差が面白く、年々参加者が増えています。

学生たちは、卒業すると、故郷へ東京へと去って行きます。決してメンバーの増加にはなりません、息の長い活動を自負しています。

当クラブに「いきいきまちづくり部会」があります。足利で和田氏（足工大）、栃木で市川氏（市役所）、小山で慶野氏、宇都宮で武井氏（士会幹事）、藤原代表（公職多彩）、那須で松永氏、日光で阿久津氏、そして保存で小西氏（宇大）が活動しています。ネットワーク、情報交換のための部会といって良いでしょう。

地方での設計活動は、その障害は多岐に渡ります。めげずに、息の長い活動、継続こそが我々クラブの活動のテーマです。

■役員構成——代表：藤原 宏史

副代表：清水 泰博

幹事：武井 貴志（4月より蓼沼 芳）

監査：松永 昌樹・岩本 秀雄

JIA 群馬クラブ

代表：米田 雅夫

連絡先：伊勢崎市 現代設計内

Tel: 090-9019-6466 Fax: 027-23-8322

E-mail: gunma@jia-kanto.org

会合：毎月第3金曜日（午後6時）

現在のメンバー数：29名

■活動内容とミッション

1. JIA 群馬セミナー 継続職能研修

私たちの職能に対する姿勢を示すため会員の義務である職能継続教育（CPD）について年間12回の「JIA 群馬セミナー」を開講し、会を挙げて履修に取り組むとともに会員外の建築士をはじめ興味のある方にも研修の場を提供します。

2. 建築祭 社会へのJIAをアピールする活動

高崎市群馬音楽センターを主会場に周辺商店街で開催します。日ごろの活動の成果を発表する建築作品展や児童を対象にした「こども建築教室」、建築家の卵たる学生諸君を励ますための学生作品を顕彰するため前橋工科大学の卒業設計コンクールおよび近接



→建築祭

5 地域会とともに学生課題設計コンクールを今村雅樹さんを審査委員長に迎え実施します。

3. 社会貢献団体への協力

本会のメンバーが主体となってNPO景観建築研究機構（VALO）をスタートさせました。群馬県は富岡製紙場を中心とした世界遺産登録に向けた活動が活発化しており早速いくつかの保存活用調査活動を支援しています。

■勧誘メッセージ

群馬地域会は30歳代から80歳代まで、また、公共建築から住宅まで設計を手掛ける幅の広い人材の集まりです。地域社会にあってどのように建築を創っていったらよいか考える足掛かりになる団体です。各種の事業展開を会員が自主的に考え、ともに活動する中で学びあい、時には競い合うことで建築に関する見識を高めることが出来ます。ここ数年で大幅な若返りを果たすことと規模の拡大に転じることが出来ます。さらなる発展のため多数の群馬在住の建築家の参加を期待します。〈米田雅夫／(株)米田設計〉

JIA 山梨クラブ

代表：長田 孝三

連絡先：（事務局）山梨県甲府市飯田4-7-14 (株)イズ内

Tel: 055-226-8888 Fax: 055-226-5727

E-mail: esse@coral.plala.or.jp

会合：毎月第3木曜日

■活動概要

魑魅魍魎の跋扈する甲斐の国に集まりし7人の侍とどろろ、この国の景観やより良い環境を創造せんと、風の如くさまざまな場所に現れての活動を続け、林の如くとはなりえぬ人数ながら、建築・環境に対する思いの強さは火の如く、甲斐の国に連なる山の如くの連帯感で、活動しています。

活動は社会貢献活動と研修・親睦の二つからなり、現在の社会貢献活動としては、①甲府市中心商店街の活性化に取り組んでおり、オリオン通り商店街のアーケードのデザイン提案を行い、商店街組合のアドバイザーとして活動、②5月のGW前後に主婦向け住宅講座の開講を準備、③県下の高校の建築科を対象の卒業設

計コンクールを実施しています。

研修では、①見学会を積極的に開催、また住宅講座の開催と併せ、②会員作品展の開催を準備しています。

いずれも8名の会員によるアットホームな顔の見える活動です。〈長田孝三／(株)イズ〉

■会員氏名：天野 辰雄

網野 隆明

奥村 一利

進藤 哲雄

手塚 元廣

奈良田 和也

渡辺 安德

長田 孝三



JIA 長野県クラブ

代表：西沢 利一

連絡先：Tel: 026-232-3897 Fax: 026-232-5303

E-mail: jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

会合：月1～2回

現在のメンバー：68名



■昨年の小野宿（辰野町）のウォッチングは、暑さが残っていた。汗をかけた手足に、湧き出る清水は心地よかった。名酒「夜明け前」の産地でもある。蛍の生息地で知られている。初冬に行なわれた平沢・奈良井宿（楯川村）では、漆塗の工房を見学した。塗師と話し、漆の奥深さを知った。年2回ほど行なわれる。年末に行なわれた「本音で語る会」では、伊平支部長を招いた。松本山手の古い宿だが、小雪が舞う露天風呂からの夜景が絶品。「建築家とは」というテーマで熱い議論。その後の忘年会は夜も忘れた。夏と冬、年2回行なわれる。詳細は会報「NAGANO-KEN-CLUB」参照。年4回発行。雑誌の「愛と情熱の家づくり」は第3集まで出した。2年に1回程のペース。来年は第4集を出す予定。

定。職能委員会では、「入札によらない設計者選定」の問題を、今度の村井知事にどう説明して行くか議論中。昨年、混迷した「建築家紹介システム」問題で会員の倫理感のバラツキが解消されていない。3月には、学生卒業設計コンクール、文化講演会、会員作品展と同時開催を予定。同じ次期に、群馬、新潟 JIA の学生コンクールにも参加する。これが終われば来期への準備が始まる。我々の活動はすべて社会への認知と、独立性の確立が根底だが、建築家としての倫理感が最大のテーマである。建築家をめざす学生、若い建築家、是非この会に入って、一緒に活動してみませんか。深く入れば足下を見つめる視線が透んでくると思うよ。

〈西沢利一

／(株)西沢建築研究所〉



→小野宿ウォッチング

JIA 新潟クラブ

代表：上山 寛

事務局：新潟市東大通 2-2-9

トーカー万代第2ビューハイツ 1102 号室

連絡先：Tel: 025-243-3690 Fax: 025-243-3690

E-mail: uenokozo@silkl.plala.or.jp

会合：月1回（第3木曜日：月例会）

現在のメンバー数：22名



↑卒業設計コンクール審査風景

評を博している。新潟市等都市部での活動と共に、県内地域の大部分を占める中越大地震被災地の旧山古志地区など、中山間地でも建築家の活動の場が広がっている。都市部のみならず、これら地域に光をあて、地域の住民とともに建築家として活動の場を求めることが私たちの使命ではないだろうか。

■勧誘メッセージ

建築設計監理を専門とする私たちの置かれている環境は様々な問題を抱え、必ずしも満足のいくものではありません。この環境は黙っていても手に入るものではありません。行動することによってのみ手に入ります。建築家協会は建築設計監理を専門とする建築家の唯一の団体です。私たちと一緒に行動しませんか。そして美しい日本を、美しい新潟を創りましょう。〈上山寛アトリエ〉

■役員構成：

代表：上山寛／副代表：小林茂、姫路桂

事務局＋会計：上野久／幹事：上野久、近藤勇二、笹川正明

細田健二／監事：長橋鉄雄、塚本久志／相談役：武蔵靖之

■活動概要

新潟地域会は活動エリアのなかに4大学（大学校含む）が建築コースを持ち、毎年にぎやかに県内大学卒業設計コンクールが行われている。一昨年は、見事に長岡造形大学の学生が全国一の栄誉に輝いている。これら活動に集まった大学生は JIA 新潟クラブユースとして登録され、未来の建築家として、私たちメンバーと一緒に様々な活動に取組んでいる。活動は卒業設計コンクールにとどまらない。南北に長い新潟県の各地を訪れ毎年開催される見学会は新潟クラブのメンバーに加え、会員外からの参加も多く好

JIA 中野クラブ

代表：南迫 哲也（みなみせこ てつや）

連絡先：

副代表・小池正人／(株)小池建築設計事務所

E-mail: qwb00320@ybb.ne.jp

会合：毎月1の例会（その他食事会・見学会など適宜）

現在のメンバー数：27名（他協力会員8名）



■中野地域会の最近の動勢について

この度、JIA 中野地域会から発刊した『まちをつくろう！ 空間ワークショップ』（写真上）は、中野地域会副代表であった故・中村陽子さんと中野区立武蔵台小学校の図工科太田富夫教諭によって開発され、子供用教材としてここ6年間「中野まつり」など中野地域に限らず、武蔵野市や新宿区の小学校など子供たちと一緒に空間をいかに支承するかを進展させてきた。子供たちの考える「いえづくり」がどんなに突飛的なものであれ、われわれ地域の建築家会員も一緒になって考え、空間体験が構造体といかに一体なものであるかを、楽しんできた。

その結果、子供たちの感情が喜びに変わる瞬間は、光り輝き、楽しい経験となった。同寸断面（21mm×30mm）で、二種の長さ（900mmと1800mm）の部材をジャンボ輪ゴムのジョイントだけで構成、様々の空間をイメージしたものを組み立てる。駄目なものは駄目と、事実が教えてくれるところが面白い。新宿区戸塚第二小学校では、部材に丸棒を用意してくださったが、部材間のフリクションが少なくジョイントに滑りが生じ、固定困難であった。トゲトゲだらけの部材のほうが都合がよいことが判った。トラス構造だけではなく、ヨーロッパの伝統的アーチ構造の可能性も考え始めているが、それをどこの地域会の誰が子供たちの希望に添って指導するか、それを実現する日が楽しみである。貴方もトライ！である。中野駅周辺問題討議、自由学園明日館の食堂で教育施設を考える会合（写真右）行なっている。

〈アトリエ・みなみせこ〉



JIA 三多摩地域会

代表：嶋津 民男

連絡先：〒180-0014 武蔵野市関前 3-2-202

ADFY 山本建築事務所・山本和弥

Tel: 0422-51-9351 Fax: 0422-51-9389

E-mail: adfy1666@violin.ocn.ne.jp

会合：基本的に年1回（総会時）／会員数：50名

■東京都の中で三多摩地域会は、50名を超える会員に情報伝達する手段として、主にメールを使って行なっています。

現在の活動状況方針は、それぞれの会員が参加する地域に根ざした活動に対する協力要請、会員の興味のある事柄やイベントの会員への伝達などを大切にするということです。

いままで実施した主な活動は下記のようなものです。

◇東京の国宝建築「正福寺」見学と「宝井馬琴の講釈」を楽しむ

◇「三鷹の天文台」とその周辺の見学

◇「国際基督教大学（ICU）」の歴史ある施設見学

◇玉川上水周辺散歩「文芸家旧邸とジブリ美術館」

◇「校庭にまちを創ろう」の実施（小学生を対象としたワークショップ）：昨年5校より要請があり30名程度のゲストティーチャーを派遣

◇「三鷹建築家の会」との連携：丸池復活WSや三鷹駅前小広場WSなどで市民と共に活動しています。

◇「多摩川まちづくりネットワーク」との連携：多摩川沿い（例：府中・日野・福生など）の市民活動やNPOの人たちを連携して活動しています。

◇「町田タウンミーティング」町田市の企画実施

■役員構成——

副代表：富松 太基

幹事：安部 貞司

今川 憲英、岸 洋三

梁瀬 悦司

相談役：大字根 弘司

鬼頭 梓、高松 英二

山本 富士雄



↑造形ワークショップ（武蔵野小学校）

JIA 杉並地域会

代表：中田 久雄

連絡先：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷南 3-31-14

モリタビル6階 株式会社ベル建築研究所 坂野茂

Tel: 03-3220-5100 Fax: 03-3220-5593

E-mail: sakano@bellken.co.jp

会合：不定期／メンバー数：45名



無作為に組み合わせられて展示されるのだが、杉並地域会のメンバーで、「場と環境—4つのアプローチ」といったテーマを掲げて展示を行なった。また、ツアーや花見など会員間の親交を深めるための楽しい企画も計画されている。

私と地域会との係りは、会発足の記念パーティーに友人の杉並在住の庭師に誘われ、住民のひとりとして参加した時から始まっている。このパーティーには庭師の軽トラに乗せてもらい駆けつけた。会合や区役所には、私の事務所から杉並区を南北に横断するコミュニティバス「すぎ丸」か、自転車で出かける。鉄道沿線で括られがちな東京都の持つ地域特性を乗り越えて、自転車で動き回れる地域へ活動の軸足を置くことは、グローバルな価値観に支配されがちな世にあって、ますます重要になってくるはずだ。

〈堀正人／堀アーキテクト〉

■役員構成——副代表：遠藤勝勲・坂野茂

幹事：加藤茂子・国広ジョージ・曾根幸一

中村雅子・林美樹・吉田晃

監査：新居雅之・市川好子／顧問：郭茂林・大谷幸夫

■活動概要

2003年に発足した杉並地域会は、Bulletinに毎号のように掲載される地域会のメンバーのレポートから察せられるように、多士済々の会員を抱え、様々な活動を継続している。発足時から積極的に地域のまちづくりに係わり、今年からは「土曜建築学校」が定期的に催されている。会員は、建築設計者資格、低額入札問題、地域の学校支援、内外の地震支援、災害対策など、様々なテーマに真摯に取り組んでいる。地域会は、そんな活動の情報交換の場を提供し続けている。同時にJIA組織への提言も怠っていない。昨年のアーキテクツギャラリーでは、通常、4名の建築家が

JIA 新宿地域会

代表：相田 武文

連絡先：東京都新宿区大久保 1-3-2

Tel/Fax: 03-3205-1585

E-mail: t-aida@kt.rim.or.jp

会合：1回/月（第4金曜日他）



ります。終わってからは渡辺さん行きつけのジャズバー、高田馬場アルパートなどへ流れたりもします。お気づきのように新宿地域会は極めてアットホームで、発足は急ぎましたがあとはじっくりモノゴトを考えてゆこうとする会で、拙速は好まないようです。とはいえ酒飲みのおっさんが集まるだけの会にはしたくないので、今年度は少し外へ出るか、という気もします。地域の問題は勿論、聞こえてきますが、首を突っ込むのはそれなりに労力と覚悟が要ります。まだ様子を見ている段階です。

■勧誘メッセージ

建築家が社会とどう接点を結ぶのか、また建築家同士が精神的な連帯感をどうしたら強められるのか課題は多いと思いますが、他で得られない知的？コミュニケーションがありますので是非ご参加下さい。

■役員構成——会長：相田武文

副会長：小倉浩、山下馨

事務局長：島義人

幹事：渡辺武信、亀井正浩、山田昭雄

監査：保坂公人、大野二郎

■活動概要

新宿地域会は一昨年6月より準備を進め、昨年1月27日に発足しました。新宿区に在勤・在住のJIA会員は約280人と大所帯ですが参加いただいたのは約30人です。やや少ないのは在勤の方が多くことも一因と思えます。会は月1回最終金曜日が標準パターンです。場所は会長の相田さんの事務所をお借りしています。昨年は計9回の例会を行ないました。その内の1回は新大久保グロブ座にシェークスピアのオセロを観劇した分を含みます。例会の参加者は6～8人程度とやや少ないのですが、会長以下意気盛ん、談論風発、きわめて充実した時間を過ごしています。最初は控えめだったワイン・ビールが最初から出てくることもあ

JIA 城東地域会

代表：庫川 尚益

連絡先：くらかわプランニング設計

東京都墨田区東駒形 2-2-8-202

Tel: 03-3829-0545 Fax: 03-3829-0147

E-mail: kura-pla@viola.ocn.ne.jp

会合周期：月1回程度／メンバー数：19名



↑川巡り

■活動概要

昨春、発足しました城東地域会は、台東、墨田、江東、荒川、足立、葛飾、江戸川の七区に在住、在勤のJIA会員により構成されています。私たちは地域に密着した活動の必要性を考え、会員の顔が見える、身近な活動を続けたいと願っています。私たちの活動は自分のまちを歩くことからスタートしました。

第1回は「谷中ウオーキング」でした。谷中界限を歩き、寺町としての歴史、文学や芸術との関わり、固有のコミュニティの形成、新たなまちおこしについて考えてみました。第2回は「水都川巡り」でした。水上バスを利用した舟旅で、日常とは違う水

面からの視点でまちを眺めました。さらに、昨秋のアーキテツガーデンではミニシンポ「東京の水辺空間について考える」と東京水景写真の展示とスライドを行ないました。

今年の活動としては、3月と7月には水辺に関わるセミナーとまち歩きを、秋にはシンポジウム「(仮)東京の水景と水辺空間」の開催とパネル展示を予定しております。

城東地域は七区の広範囲にわたりますが、共通項は「水」です。隅田川、荒川、江戸川に囲まれた七区は水でつながっています。私たちは「水辺空間」をキーワードに建築、まち、環境、景観、文化、防災などについて考えていきたいと思っています。

このような私たち城東地域会に興味を持たれた方、一緒に活動しましょう。(岸成行／岸総合計画研究所)

■役員構成——事務局長：島村 忠弘

副代表：横山 聡

副代表：岸 成行

→谷中にて



JIA 文京地域会

代表：菊竹 清訓

連絡先：文京区関口 1-43-5 新目白ビル

野生司環境設計 野生司 義光 (のうす よしみつ)

Tel: 03-3209-4900

会合：1～3ヶ月に1回



■活動概要

建築家は、地域の文化を支え、守り、伝え続ける役割をもっている。命を守る医者、権利を守る弁護士と同様に、安全・自由を守る建築家は、自分の興味や単なる職業としての専門領域だけに留まらず、地域に対しても重大な責任を担っている。

わたしは文京区に住んで早や半世紀になるが、「文京」の意味を考えると、もっと教育環境の整備について発言すべきだと思う。文京地域会では、自分が勤務または住んでいる地域の小中学校の教育環境について意見や提案を述べ、ボランティアとして実行するように心がけるべきだ。例えば、通学路の交通安全、夜間照明、学校内の防犯や緑化など、提言すべきことはいくらかもある。

また、少子化による学童数の減少に対しても、すぐに廃校にして学校跡を売却し、マンションを建設するといったことは、その学校の卒業生にとってはふるさととの記憶をなくすことにもなり、堪え難いことである。

それよりも、まだ使える上下水道やRC造の校舎、運動場などを地域の公共インフラとして整備して残せば、老人クラブや託児施設、地域集会の場などに有効活用することができる。小中学校は学区の中心に位置しているので、森のある空間として再生すれば、災害時の避難場所としても役立ち、空気の浄化にも貢献する。しかし、それにもまして、学校をとおして皆が心のふるさととして地域の施設を大切にしていくことは、文化の継承にとってきわめて意義深いことであり、地域会を中心にこのような議論を社会になげかけていくことが、これからの課題ではないかと思う。

■勧誘メッセージ

建築家にしかできないビジョンと、文化の創造につながる、ふるさとづくりを一緒に実現しましょう。

(菊竹清訓／(株)菊竹清訓建築設計事務所)

JIA 渋谷地域会

代表：三井所 清典

連絡先：JIA 渋谷地域会事務局

(レーモンド設計事務所内) 竹中一則

Fax: 03-3460-3604

E-mail: jia_shibuya@raymondsekkei.co.jp

現在のメンバー数：61名



↑「隣の建築家」
マップ作成

■「隣の建築家」

渋谷地域会は去年6月に誕生した若い地域会です。渋谷区内で活動している建築家・建築士は相当の数に上ると思われますが、参加メンバーはまだ少なく、その点からも駆け出しの組織です。そもそも建築家という職業は組織的な活動が不得意な人々の選好職業ではないかと思う面があります。しかし地域社会で起きている様々な出来事やこれから起きることを予想すると個人の力は余りに小さく、力を合わせて地域に貢献したいという想いが強くなります。そういうことから、私たちは「隣の建築家」というキーワードで活動を始めました。これには二つの意味があります。一

つは地域内で活動している仲間の存在を互いによく知り合うこと。もう一つは地域住民に建築家の仕事と想いを知って貰うことです。そのために事務所や住まいの場所と仕事としてかかわった建物などを地図上に印し、紹介しあうことを始めました。それだけで様々な発見があり仲間意識が芽生えています。

地域活動を個人的に始めていた永松暁さんは実質的な組織の担い手です。住人でもあり、とにかく地域の情報に詳しい建築家です。石原貞治さんは代官山地区の活動家で、顧問の横文彦さんは象徴的存在。西勝郁郎さんは他地域会の経験者です。私達は「隣の建築家」として区役所や住民との関係を深めるため、街あるき・フォーラム・シンポジウムなどの催物にも参加、後援、主催などの様々な形で取り組み始めています。

〈三井所清典／(株)アルセッド建築研究所〉



↑代官山まち・建築ぶらり
散策

世田谷地域会

代表：阪田 誠造

連絡先：世田谷地域会事務局：黒木 実

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-14-15-104

黒木実建築研究室 Tel: 3439-4190 Fax: 3439-4726

E-mail: skyland@s3.ocv.ne.jp

会合：毎月第4金曜日 19時から

現在のメンバー数：51名

■活動概要

建築家の社会的認知が弱い日本では、身近な社会に目を向けた、職能の理解と信頼を得られる活動が基底に必要である。JIAが支部組織を「地域会」に移す改革は、地域の会員活動を全国的に拡張するための、基盤の構築であり、JIAの未来を拓く期待がある。世田谷地域会の準備委員会には、地域内の鉄道駅周辺の問題提起（下北沢計画）グループや、区内の価値ある住宅建て替えに対処する調査と記録、重要建物の保存活動、区内「まち歩き運動」を続けているメンバーたちが集まり、昨年9月設立総会を経て「世

田谷地域会」が発足。メンバーには、区内の3大学（国士館大、武蔵工大、昭和女子大）を職場とする建築家を擁し、総会会場や例会会場に利便をいただくなど、環境と人的条件にも恵まれている。第一線で活躍中の会員が多く、高齢の代表だけが早期に現役メンバーに交代を要する不適格者を除き、活気に富んでいる。

これまでの例会には、会員の紹介で区内小中学校の耐震改修をめぐる実情について、PTA連合会長の実情報告を聞く会、大学祭のシンポジウムに合せた見学会など、地域との交流をはかる活動を行なった。地域が広く、鉄道（京王線、小田急線、東急線）沿線でサークルをつくるか、との検討課題も挙げられている。かつて公共建築づくりに先進的な区が、現在は競争入札の設計者選定を当然と常用し、その改善要求が重要な課題である。地域会例会は毎月第4金曜日19時から。新会員の参入を歓迎します。

〈阪田誠造／(株)坂倉建築研究所〉

JIA 千代田地域会

代表：中山 信二

連絡先：Tel: 03-5216-7255

Fax: 03-5216-7257 E-mail: nakayama@archinaka.com

会合周期：月1回（第4火曜日）／会員：22名



■活動概要

千代田地域会は、昨年10月に会員22名で誕生しました。立ち上がり企画として去る1月に設立総会を迎えた中央地域会の皆さんと街並みウォッチングを双方で実施し、その後合同のセミナーを企画して大いに盛り上げました。ウォッチングはメンバーである岡田新一氏に最高裁・国会を中心とする「三権の丘」を案内して頂き、連携セミナーは、広い意味での江戸・東京の個性を路地空間と捉え、路地研究第一人者岡本哲志氏を行事役に、千代田区側は岩井氏（三菱地所設計）、中央区側は杉浦氏（現中央地域会代表）と役者揃いのJIA会員同士の意地の張り合いを大いに期待していたのですが、中央区の名物助役の吉田氏の一刀両断の太刀裁きに両者の連携プレーはこれからのお楽しみとなりました。わ

が地域会には、景観や保存問題に精通したメンバーがおり、イタリア文化会館の色彩や三信ビルなどの保存問題などにも積極的に発言しています。地勢的にも神田川が千代田区の北側のお堀端を巡っており、江戸以来の大切な水辺景観の再生も期待されるところです。本年10月に開催されるJIA東京大会にも他の地域会の皆さんと一緒に東京という地域の個性について連携したセミナーなども企画していく予定です。

■勧誘メッセージ

千代田区という日本でも有数の昼間人口と夜間人口の差が極端な地域。神田明神に代表される江戸の伝統と丸の内・秋葉原のような最先端な街並みが混在する地域。会員の大多数は在勤者ですが、地域を愛し地域の共有財産・価値（コモンズ）を追及した活動を次年度から具体的に開始致します。是非一緒に地域貢献について深く掘り下げ、果敢に行動して行こうではありませんか。

■役員構成：代表：中山信二／副代表：赤堀忍、平川國一

事務局長：伊藤誠之／幹事：太田安則、木村左近、篠田義男、左知子、村上晶子／監査：大隈哲、福岡征美
顧問：岡田新一、東條隆郎、與佐野久

●JIA 茨城クラブ

代表：内藤 彰（(株)のあ設計事務所）

連絡先：天茂彦（(株)天建築設計事務所）

E-Mail: ama-archi-design@s9.dion.ne.jp

- 東京の地域会では、中央地域会が立ち上がり、城南地域会、港地域会、および城北地域会が準備中です。

デザイン部会

部会長：堀川 秀夫

連絡先：JIA事務局・菊地

Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

E-mail: hideo@horikawa.ne.jp（堀川）

会合周期：月1回または隔月

■活動概要

デザイン部会は会員の自由な発案によりテーマを決め、シンポジウム・レクチャー・見学会を催しています。JIA部会の中でも最も古い部会の一つであり、先輩達による様々な活動を行ってきました。近年では1年を通してのレクチャー「日本の前衛を再考



する」というテーマで、六角鬼丈氏から篠原一男氏までの12人の建築家を招き講演を行っていただきました。見学会は、ソーラーシステムを併用した秀逸な住宅・大野二郎氏設計による自邸や、村野藤吾の建築と対話するようにつくられた連健夫氏設計のルーテル学院大学新校舎、設計者の詳しい説明を供にしながらの国立新美術館に足を運んでいます。シンポジウムでは、都市計画道路策定による下北沢駅前改変問題にスポットを当て、地元市民と活動を供にしている建築家・二瓶正史氏にお願いし、下北沢の街歩きまで実施しました。またJIA新人賞受賞者講演会も例年行なっております。渡部和生氏・藤本壮介氏・遠藤政樹氏を迎えました。

■勧誘メッセージ

デザイン部会では、上記活動内容以外に会員が取組んでみたい問題や呼んでみたい講師を、自由に自分の企画で立案し実現することができます。「建築家がデザインしたお弁当箱展」や「セルフビルド建築体験」、「日本路地裏観察学会」など今後楽しい企画を考えていますので、気軽に入会してみてください。

〈堀川秀夫／(株)堀川秀夫造形建築研究所〉

都市デザイン部会

部会長：久間 常生

連絡先：Tel: 0422-28-1991

Fax: 0422-21-1992

E-mail: kyuma@kyuma.net

会合：概ね1月1回

メンバー数：登録50名程度（アクティブ会員20数名程度）

■活動概要

JIA 唯一の「まちづくり」「都市デザイン」を基本テーマとするグループです。昨今景観法など「景観」「まち」関連の話題が盛んで、建築家は専門家として改めて「まち」に関わることが求められ JIA も力を入れています。が、生の情報入手や実践研究をする機会は案外少ないものです。

当「部会」はミッションの課せられた「委員会」とは立場を異にし、自由な個人の関わり、情報・意見交換を信条として、アトリエ系、組織事務所、大学の先生、賛助会員の方々など、魅力的で多彩なメンバー構成で、多くの実践経験、知見などを紹介し合い、具体的戦略や作法なども培っています。

■勧誘メッセージ

こう書いてくるとやや硬い印象ですが、実は気軽に楽しく出入り自由で多くの仲間を得られ、貴重な情報入手や面白い体験ができ、深い達成感があるというのが当部会参加者の感想です。

内外講師によるセミナー、レクチャ、まち歩き、見学会など、月1回のペースで定例会を続けています。年1回の宿泊研修ツアーも恒例となっており、夏の納涼会と年末忘年会で開催する3枚のピクチャ発表会も魅力のひとつです。

そろそろ何か活動しようと考えている皆様、絶対にお得です。楽しく勉強になり仲間が増える当部会には是非参加しませんか。

〈久間常生／久間建築設計事務所〉

写真1年1回の都市デザイン宿泊ツアー（2006年夏、三島グランドワークでの研修）



メンテナンス部会

部会長：宮城 秋治

連絡先：Tel: 03-5413-4366 Fax: 03-5413-4367

E-mail: miyagi-a@kf6.so-net.ne.jp

会合：月1回（第2水曜日）

■活動概要

集合住宅のメンテナンスやリニューアルに積極的に取り組んでいる建築家が集う部会です。建築家は、依頼者や社会に対して、個人の利益を離れた専門家としての助言を行なう責任があります。客観的に建物を診断し評価する、劣化の状態に合わせた修繕方法を提案する、長期的な視野に立って改善項目を提言する、発注内容通りの施工がなされているか工事を監理する。これらの一連の作業は建築家の公正中立な立場で初めて実現します。日本ではこれまでスクラップアンドビルドを繰り返してきたため、修繕のできる建築家がわずかしきありません。若手建築家をサポートし、修繕のスペシャリストを育成し、建築家相互の修繕の技術を常に向上させていくことが命題となっています。メンテナンス部会では、月例の会合と勉強会、集合住宅のメンテナンスやリニューアルに関する出版活動、市民に向けたメンテナンスセミナーの開催などを通して、建築家相互の連携を図るとともに、建築家としての研鑽を常に重ねています。

■勧誘メッセージ

建物のストックが多くなって各自治体から修繕についての相談、セミナーや改修工事現場の見学会の依頼も増えています。メンテナンス部会から JASO（耐震総合安全機構）へメンバーを派遣して構造技術者と設備技術者とともに総合的な見知から耐震診断も行なっています。建築家に対する社会のニーズが新築から改修へ大きくシフトしてきました。既存の建物に愛着を持って永く使い続けることに魅力と喜びを感じる建築家の入会をお待ちしています。

〈宮城秋治／宮城設計一級建築事務所〉



住宅部会

部会長：大川 直治

入会希望者の連絡先：住宅部会宛

Fax: 03-3408-8294

E-mail: jutaku@jia-kanto.org

HP: <http://www.jia-kanto.org/jutaku>

会合：月1回程度。他ワーキング・セミナー見学会

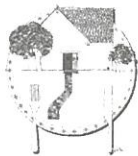
メンバー数：96名（正会員81・研究会員12・賛助会員3）

■活動概要

住宅部会は、住宅設計を中心に活動している建築家の集まりとして、1975年に（旧）日本建築家協会において発足した歴史ある部会であり、現在 JIA 最大の部会でもあります。市民に身近な住宅設計を通して、美しく住みやすい街と創造性豊かな住宅文化の構築に寄与することを目的として活動しています。

主な活動は、◎一般向けセミナーの企画・運営／住宅づくりの情報が溢れるなか、一般の方に正しい知識を伝えると同時に、建築家の役割・その職能を理解頂く活動の一環として年間30数回の一般向けセミナーを開催しています。参加者は年間延べ800余名になります。同時に、住宅関連雑誌へのインタビューや執筆、一般向け解説冊子の作成などもしています。◎部会員の倫理・技術・能力の維持・向上のために、年間10数回の部会員向けセミナーや見学会をしています。他に、◎部会員の住宅作品の展覧会を不定期で開催。◎地震災害地での家屋判定・調査・相談会への部会員参加。◎部会 HP（上記参照）で活動や部会員の紹介をし、また部会員同士のメーリングリストにより建築情報交換を活発にしています。これらの活動は部会員の自主参加により企画運営されています。まずは気軽に参加してみてください。

〈大川直治／大川建築都市設計研究所〉



住宅再生部会

部会長：鯨井 勇（監設計室）

連絡先：Tel: 03-3557-4711 Fax: 03-3557-4713

E-mail: kissh@air.linkclub.or.jp（日欧設計事務所・岸崎宛）

会合：月1回（第1水曜日）／現在のメンバー数：50名

■住宅再生部会は戸建住宅の再生を理解する人なら誰でも参加自由とし、現在は50余名の JIA 会員と非会員で構成され、隔月に1回、研究会・事例発表を行なっています。この会での実践報告は多岐にわたり、現場見学会や研究旅行なども含めて、2006年12月までに90回開催されています。私達は建築に関わる古き良き環境を、次世代に残し引き継ぐという理念を現実化するため、建築家はもとより住み手である一般の人々の参加をも含め、よりよい関係の中で目標を提示し活動しています。

活動の指針としては、建築のライフサイクルを見直し安全で、長寿命、省エネルギー、多方面での省資源、そして循環・継続性といういろいろな取り組みを始めることによって、環境を保全しながら建築の工法・技法等を考え、古民家の発掘と再生可能な建物・部材などの再生利用を通じて、現在のスクラップ&ビルド型の社会構造を転換していくことが目的です。一人の活動ではなかなか壁の厚いことも、仲間が集まり行動しひとつひとつの事例を検討し表現してゆくことで、今より一歩前に進めることが出来るものと考えています。

一般に向けた活動としては1999年に戸建て住宅のリフォーム・改修の経験を「住まいのリフォーム事例集」（鹿島出版）という形で出版、また2005年には住宅建築誌より「住宅の改修」というムック本を発刊し、それを元に住宅金融公庫とも連携してセミナー・相談会等の活動も行なっています。多くの方のご参加をお待ちしています。

〈岸崎孝弘／日欧設計事務所〉

情報開発部会

代表：天神 良久 ((株)構造システム)

連絡先：部会ホームページ：http://www2.bpo.co.jp/jia

(連絡先メールアドレスも記載しています)

■「建築とITと情報」をテーマに15名ほどの部会員、および賛助会員Gグループと合同で各種活動を行なっています。

主な取組みは、月1回の部会・勉強会または見学会、およびアーキテツガーデンにおけるCG画廊、学生CGコンテストの企画、運営。CPD適応セミナーの企画、運営を実施しています。

昨年行なった主な勉強会、セミナー、見学会をご紹介しますと

◎勉強会：熱環境シミュレーションソフト、シンククライアントなど

◎セミナー：「ル・コルビュジエ デジタルアーカイブの全容」——3年にわたる、ル・コルビュジエ建築設計資料デジタルアーカイブ化の試み(会場：建築家会館)

◎見学会：住宅免震基礎現場見学 など

また、学生CGコンテストは7年の歴史があり、商品提供企業(福井コンピュータ(株)、(株)インフォマティクス、(株)建築ピボット)の参加、建築雑誌への掲載など規模が拡大しつつあります。入選作品(優勝1点、準優勝1点、入賞6点、佳作3点)はアーキテツガーデン2006期間中、銀座INAX館7階にてCG画廊併設展として5日間展示され、大勢の学生さんの見学がありました。また、入賞者は上記部会ホームページにて報告も行なっています。今年度も昨年度同様に活動する予定です。また、新会員も随時募集しておりますので、ご興味あるかたはお気軽にご連絡ください。〈天神良久/(株)構造システム〉

→免震基礎現場見学



建築交流部会

代表：亀井 正浩

入会希望者の連絡先：

(株)亀井建築設計事務所 亀井正浩 宛

Tel: 03-3985-8538 Fax: 03-3985-8506

E-mail: info@kameisekai.jp

会合：月1回/現在のメンバー数：22名、参与会員2名

■活動概要

建築交流部会は、様々な活動を通してJIA内外の相互交流を図ることにより、社会における建築家の職能についての理解を高めることをその目的とし、具体的には、①カルチャースクールとの協働により2〜3回/年の建築見学会(最近では「時を経て輝き続ける建築の記憶——東京・関東の名建築を建築家と訪ねる」と題して、宇都宮の大谷資料館や世田谷の猪俣邸、横浜赤レンガ倉庫を見学)、②「建築家のメモ展」の開催(昨年までに8回)、③丸善株式会社による「建築家のメモ」「建築家のメモII」出版の監修などを行なっており、その他にもいろいろな方々とのネットワークを構築するべく堅実に活動しています。その歴史は古く1987年に教育委員会として発足以来今年で20年目を迎え、今後はこうした活動に賛同して頂けるメンバーを数多く迎え、「新しい風」を吹き込むべく部会員一同意欲を燃やしています。

JIAに入会されながら委員会・部会活動にまだ参加されていない会員の皆さん、年会費を支払って会報誌を月1回受け取るだけで満足されていますか？ 自分が動くことで周りが動く、自分から発熱することで周りに影響を与える、人の輪は交流を重ねることでどんどん広がって行きます。まさしく「交流」の場、建築交流部会へ是非ご参加下さい。大切なことは「始めの一步」です。

〈亀井正浩/(株)亀井建築設計事務所〉



↑横浜赤レンガ倉庫見学会

ミケランジェロ会

代表：岡 整一

会合：不定期/作品展示：年2回

スケッチ会：年数回

連絡先：E-mail: abcdefg@hijklmn.op

■会の始まりと活動概要

建築の設計に携わっている人たちは、元々画家になろうとかと一度は考えたことのある人たちです。そして色々迷ったあげく建築を選んだ方が多いようです。従って例外なく絵を描くことが好きで、それなりに絵の訓練は受けておられます。こうした方々が初めはそれとなく集まって、スケッチやデッサンを描き、お互いに批評し合ったりして何となく美術クラブを作っていました。そのうち作品を一般の多くの人々に見ていただくようになり、名前も皆で考えて、偉大な彫刻家であり、画家であり、建築家でもあったミケランジェロの名をもらって「ミケランジェロ会」と付けました。そしてJIAのイベントに協力して会場を設定してもらい、また東京都が管理する新宿のプロムナードギャラリーを毎年6月頃借りて展示するようになりました。展示会の前には、銀座、青山などの町並みや風景や近郊の公園に出かけてスケッチ会を催します。スケッチ会の後、近くの飲み屋に入って、作品を披露しながら褒めあったり、批評しあったりします。話にはずみがつくと、気持ちが一つにまとまります。こうした楽しいグループですので、多くの会員が参加されて、益々盛んになることを願っております。

〈岡整一建築事務所〉



ブリッジクラブ

代表：林田 研/会合：毎週金曜日 18:00〜21:00

連絡先：(株)研建築設計事務所 Tel: 03-5437-6541

Fax: 03-5437-6572 E-mail: hayashida@archimedia.co.jp



ワイン倶楽部

代表：土岐 新・林 寛治

世話人：堀川 秀夫 (→写真中央)

連絡先：JIA 菊地 Tel: 03-3408-8291

Fax: 03-3408-8294 E-mail: hideo@horikawa.ne.jp (堀川)

会合：隔月開催

■活動概要

ワインクラブは「建築家たるもの、ワインの嗜みが必要である」という大義名分のもとに、楽しくワインを飲みながら語り合う会です。ただ飲むばかりではなく、ワインのテキストを参考書としてブドウの品種や産地の特徴の勉強、どの料理にどんなワインが合うのか、ブラインドテイastingによるワインの利きかたまで、幅広い知識を習得することも目的としています。世界中のワインを楽しんでいますが、委員長の2人を始めコアメンバーは建築家として深くイタリアに関わっている人ばかりなので、イタリアワインに造詣が深くなっています。ワイン好きの様々なジャンルで活躍されている人も参加していますので、ワインを介して魅力的な人達に出会えることも楽しみの一つであります。建築家のジャン・ヌーベル氏が来日した時も、席を共にすることができました。またホームパーティーを開催し、珠玉の時間を過ごすことも大きな楽しみです。林寛治氏の名作である自邸の大きく開いた窓から入ってくる風をワインと共に楽しむ、ワインクラブに参加して良かったと思うひとときです。

■勧誘メッセージ

ワインクラブ設立当初は、JIAの会議室を借りて開催していました。その後レストランを中心に隔月開催で行ってきました。今年度から企画を新たに、場所の選定も変え開催いたします。ワインや料理に興味のある人、是非入会してください。

〈堀川秀夫/(株)堀川秀夫造形建築研究所〉



■新会員

建築の原体験から、今につながる想い
堀内 雪

■父親が設計関係の仕事に就いていて、生まれた家はRC造でした。打ち放しの壁には、画鋲が刺さらず、子供心に友達の家と違うのがとても不思議で、両親に不満を言ったのを憶えています。それから、今度は土間があって、蛇やトカゲが出る農家の建物に移り住んだり、父に連れられて寺社仏閣巡りをしたりして、いつの間にか建築が自分のなかに擦りこまれていったような気がします。毛織織の元では、美術館や小学校など公共建築の設計にたずさわりましたが、独立後は、住宅を中心に仕事をしております。自分の手の感覚が届く範囲の設計をやりたいという強い思いがありましたが、あらためて考えてみると、自分自身の建築の原体験に回帰しているようにも思えます。

この度、建築家協会に入会させていただいて、さっそくいくつかの会に参加する機会を得ることができました。経験豊かな先輩や同輩の方々とお話をさせていただくと、楽しいだけではなく、「なるほどそう考えればいいんだ」とか、「こういう方法もあるんだな」と目から鱗が落ちることがしばしばです。建築という領域のみならず、人生のなかでのちょっとしたヒントをいただいているようでもあり、日々の仕事に追われ、どうしても狭まってしまうがちな興味の幅や見識が広がっていく気持ちのよさを感じております。建築家協会という場を通じて様々な刺激を受けさせていただきつつ、私自身も、周囲にちょっとしたヒントを投げることができるような人間に成長していきたいと思っております。

〈スタジオCV〉

■新会員

建築家として
松永 基

■JIAは僕にとって敷居の高い所だった。僕がまだフリーで師である佐賀和光の仕事を手伝っているとき、普段はジーンズの佐賀がボウタイをしてスーツを着ている時があった。

「あれ？佐賀さん今日はスタイリッシュですね？！」「おう、今日はJIAの寄り合いでピアノ弾くんだ」といった具合である。その時はJIAは偉い建築家の先生の集まりでなんだか恐ろしく思えたものである。

あれから20年。僕もどうにか事務所を開き、建築家としてやってきた。昨年、平川先生の紹介もあってJIAに入会させていただいた。建築家としては出来ないことの山積みだが、今後はJIA活動に少しでもお役に立てればと思っている。それが1999年に海に逝ってしまった佐賀への恩返しのようにも思える。

僕は今、住宅を主に設計している。住宅は手間がかかる。それでも住宅は建築的細胞が宿り、人間が暮らす最小で最大の建築なのだと考え、設計を続けている。建築家の手による住宅はまだ少なく、希望するケースは確実に増えてきてはいるものの、建築条件付きの土地、住宅ローンの問題などなど、建築家と家の造りの基盤が整備されていないと実感する。すべてが建築家によらなくていいのだが、誰かが設計し、建てるのなら、その中に建築的細胞が宿っていて欲しいのである。建築家の住宅が今後もっと認知され、建て主の選択肢になればと思っている。

そのような活動がJIAの中で出来ればと僥倖ながら思っている。

〈エムズワークス一級建築士事務所〉

■新会員

人の心を動かす空間
大塚 浩子

■建築家としてこれからの活動をどのように展開するか考えていた頃、優秀建築選の募集を知りました。これに前年完成した作品の資料を送ったことを機に、私は日本建築家協会に入会し、登録建築家となりました。

私が建築家を志すのに影響したのは、ひとつは小さい頃からよく見ていた遺跡の映像です。たとえばある季節のある時間だけここに日が差すというような劇的な演出が好きで、断片的な記憶が今も残っています。もうひとつは自宅の増築です。私が生まれ育った家は当時一般的な中廊下型の木造住宅で、中学生の頃2階に子供部屋を増築してもらいました。できあがっていく様子を間近に見るのは本当にわくわくして、それ以来自分で勝手に図面のようなものを描いて遊んでいました。そしてこのふたつが「建築」という言葉とともに表現されるものだ気がついたとき、建築の道に進みたいと思ったのです。

これまで建築の仕事に携わってきた中で強く印象に残るのは、独立後最初に設計した住宅の朝の光景です。引渡しの日、撮影のためにまだ暗いうちから現場を訪れて準備していると、突然ある窓からまぶしい光が差込みました。周囲を暖かい気配が包み、空間がなにか語りかけてくるように感じました。

建築において私が大切にしているのは、時間とともに姿を変える光であり、通り抜ける風であり、人の心を動かす空間です。私は少しでも多くの人が感動できるよう建築の活動を続けていきたいと思っています。

〈atelier o〉

■新会員

新しいこと
保坂 猛

■このたび会員となりました保坂猛です。早速JIAセミナー実行委員の仕事頂き、活動に参加しはじめたところです。

私は建築のテーマとして「屋内と屋外の新しい関係性」を考えています。「LOVE HOUSE」(『jt』2006年1月号)では「屋内でもなく屋外でもないような空間」として雨風を程々に防いだ庭のような建物のような、どちらともつかないものを考えました。最新作「アクリルの家」(『jt』2007年4月号)では「屋内と屋外の境界面を限りなく透明にする」ということにトライし、目地も方立でもない連続するアクリル面により屋内と屋外の境界面をつくりました。これにより、屋内にいて今までよりも庭が近くに感じる新しい空間となりました。このようなことの先に、現代において非常に大切な何かを、私たちを取り巻く環境や人と自然の新しい関係を発見できると考えているのです。だからこそ純粋にかつ果敢に、戦っていければと思います。

これらは私がJIAに期待することと似ています。現代の社会との新しい関係を発見するために、様々なものと果敢に戦うことがJIAに望まれます。才能と能力のある建築家が関われば素晴らしい景観になっただろうと惜しまれる建造物が世の中に多過ぎます。建築家を介させないところでずさんなやりかたで物事が決定され、政治や制度や慣習はまだまだ理想とは程遠い。すでに始まっているそれらとの戦いがいずれ、美しい都市や未来を切り開く原動力になる、そのような活動に少しでも参戦できれば幸いです。

〈保坂猛建築都市設計事務所〉

■会員

「バーに居ろ」と宮脇さんは言った
渡辺 武信



■私が会員になったのは1972年で、『新建築』と『近代建築』に設計した住宅が掲載され、これで入会の資格を得たと判断したことがきっかけである。現在、雑誌掲載は会員資格に関係ないが、当時（JAA）は「敷居の高い」会だった。入会申込書を取りに訪れると、宮脇さんがいて「おう武信、入会するのか」と言って推薦文を会館バーでサラサラと書いてくれた。彼は「入っても何のメリットもないよ。でもこのバーでは前川さんや大江さんと対等に話が出来るからバーに居ろよ」と助言してくれた。宮脇さんは弱冠36歳で本部理事に就任、頻りに協会に来ており、所員は協会通いを「今日も会」と揶揄していたそうだから、私との偶会も確率の高い現象だった。

私は助言を守ってバーに通い、前川、大江ばかりでなく、海老原一郎、林昌二、横文彦らの先輩と親しく話す機会を得た。宮脇さんは「どんな偉い建築家でも『先生』と呼ぶな、〇〇さんでいい」とも言ったので、前川さん、大江さんと呼んでいたが、丹下さんには悩んだ。大学で教えを受けたから「先生」でも当然だが、区別するのもおかしく、ちょうど会長時代だったので丹下会長と呼んだ。私は圓堂さん、丹下さんの会長時代に本部理事を務めたが、宮脇さんは「敷居を低くして会員を増やす」戦略に反発して脱会した。私は私なりに納得して協力したが、「会員三万人」構想は画餅に終わり、現在の「会費値下・会員増強」の推移も考えると、宮脇さんが正しかったのかもしれない。ちなみにJAAでは会費12万の時期もあったが、私は「協会はバー」という意識からして高いと感じたことはない。

〈渡辺武信設計室〉

■会員

face to face の場が生きた情報に
加藤 将己



■私がJIAに入会したのは1987年ですから、足掛け20年になろうとしています。今でこそインターネットを通じて、あらゆる情報を居ながらにして手に入れることができます。しかしその情報も生身の人間に近いほど、face to faceの場がより生きた情報となります。イベント、見学会などで多くの会員の方とお会いし、お会いした方々の人生観、価値観、生き様に触れてきました。木村誠之助氏であり木村俊介氏、野村加根夫氏、椎名政夫氏、渡辺武信氏と建築雑誌、住宅雑誌を通じての顔見知りから当代きってのお歴々に直接お会いし、ほとぼる建築観を感じとったものです。これは活字やネットからは得られない貴重な一面であり、JIAに入っているのなよりの財産です。部会、委員会活動然り、活動を通じて刺激、感動が生まれます。賛助会員の方々との交流もJIAならではの連携でしょう。もちろん自分が動かなければ何も得られません。ラージファームはラージファーム相応の動きもあるかと思いますが、アトリエ系の小規模事務所にとって、多くの局面での活動が何よりの触発された展開につながりましょう。

今のJIAに望むとしたら、古色蒼然とした建築家論云々でなく、時代の流れをとらえた、一般の社会にわかりやすい建築界の姿の開示であり、会員のためのJIAでしょう。今からでも遅くない。

〈(株)将建築設計事務所〉

■賛助会員

団結して前進を
青淵 隆督



1987年にJIA新発足。1989年、当時の鈴木尚・対外交渉委員長による賛助会員制度確立に伴い、Fグループの副幹事、続いて深浦栄助委員長による立石博巳、片山幸則両氏と共に代表幹事拝命以来18年、代々の交流委員長のご懇篤な指導の元に、今日まで何とか、お役を務めて参りました。

1989年当時は、建築資格の確立、日本におけるJIAの役割と将来展望、ポストモダンの出口は？ 建築市場の開放について、といった問題が熱っぽく論議され、1989年10月の第2回賛助会員大会では、北代禮一郎JIA会長から「これからのJIA員の一人一人と手を取り合って進んでいく」とのご挨拶を頂き、我々賛助会員一同大変感激しました。賛助会員各グループの交流も深まり、それぞれの研修会、懇談会でも「GC抜きで建物が建つか？」とか、「建築における設備、メーカーの役割」「賛助会員のJIAへの関わり方」といった議論が盛んに交わされました。CMの勉強会ではみな真剣に将来の夢を語り合いました。昨今の建設業界の現状を目前にして、18年を経た今日誠に感無量であります。コンプライアンスの名を借りての目に余るダンピング。官民、大小規模を問わず低価格競争激化の構図は変わらず各企業はまさに存続の危機に立ち至っているのが現状であります。わがJIA傘下の賛助会員各社もその例外ではありません。国交省が打ち出した品質確保対策、中建審WGのすみ分け議論でこの現状が救われるのか。JIAはこの現状に対して何を提言出来るのか。UIA東京大会、JIA 20周年記念行事は最重要課題ではありますが、今我々賛助会員が目前にしている此の建設業界の現状に対して、JIAは何を叫んでくれるのか！ 寺山修司流に言えば、「書を捨て、町へ出よう！ 迷える賛助会員どもJIAについて来い！」と言って頂きたいのであります。「美しく、快適で安全、そして次世代を育む都市建築を！」と述べられた2007年、仙田会長の年頭所感を実現するためにも我々はJIAのもとに団結して前進、この困難に立ち向かって行こうではありませんか。

〈Fグループ代表幹事／酒井工業〉

■新入賛助会員

JIAの活動を広く世間へ発信
井上 公二



皆様はじめましてこんにちは。2006年度下期より新たに賛助会員（F2グループ所属）に加えさせていただきました新日本石油の井上と申します。よろしくお願いいたします。新日本石油と言いますと「ENEOS」ブランドで展開しているガソリンスタンドをまず想起される方が大多数かと思いますが、私が所属している新商品事業部ゆかい〜なグループで扱っておりますのは、電気式床暖房「ゆかい〜な」です（商品名がそのままグループ名になっています）。では、なぜ石油会社が電気式床暖房なのか？ 当社では、石油のさらなる有効活用の一環として炭素繊維を20年以上にわたって研究しており、これまでも人工衛星、耐震補強、ゴルフクラブのシャフトなど多岐にわたる用途において当社の炭素繊維技術が生かされてきました。そして炭素繊維の新たな機能を利用して開発されたのが、炭素繊維を発熱体に用いた電気床暖房だったのです（1996年より販売開始）。さて前置きが長くなりましたが、コア事業である石油以外にもガス、電気など多様なエネルギー事業を手がける当社といたしましては、今後とも「環境に優しい、快適な家作り」に向けて正会員、賛助会員の方々と力をあわせて頑張っていきたいと考えております。また、そうしたJIAの活動を広く世間の方々に正しく知っていただくこともJIAのさらなる発展のみならず、一人一人のお客様の満足度向上につながることを確信しておりますので、その点においても力になれるよう頑張っております。何卒よろしくお願いいたします。

〈新日本石油株式会社〉

四役の JIA 活動

■支部四役会議について

四役会議であるが、会員の方にはさぞかし聞き慣れない会議と思われたことだろう。それもそのはずで、支部会務の会議として決められているのは、支部総会、役員会、常任幹事会であるからだ。実のところ四役会議は、支部運営においても課題が山積していることから、新旧支部役員の引継ぎ会がヒントになって設置された。そしてこれは非公式の会議で、支部長、副支部長、幹事長、副幹事長をメンバーにして 2006 年度から開かれている。

四役会議では、支部長が掲げる基本方針を具体化していくため、忌憚ない意見交換や課題整理を行なっている。この議論の中から支部長諮問の WG も生まれている。また役員会の前に開催される場合には、論点整理がなされると共に説明資料に不足はないかななどの検討が行なわれている。ある意味で四役会議は、支部四役の意思疎通を図って、JIA が直面する課題に臨機応変に対応するためのキックオフ会議で、硬い言い方をすると時代の要請で生まれた戦略会議である。

■支部幹事長について

会員の方々は幹事長という職責をご存知だろうか。おそらく馴染みのない職務であろう。幹事長といえば、世間では政党の党務を取り仕切る幹事長が有名であり、ま



関東甲信越支部
幹事長

森 暢郎

た同窓会などの世話役代表という役割もある。JIA の幹事長は、政治の世界のような胡散臭く思われる職務ではない。改めて説明する必要はないかもしれないが、当会の関東甲信越支部規定に「幹事長は幹事の意見を取りまとめ、役員会の議事運営に関する審議をはかる」と記載されている。つまりは有り体に言うと、支部総会、役員会、常任幹事会の議長を務める役職だ。

現在、支部の役員会などでは多彩な意見が取り交わされ熱心な討議が行われている。白熱する議論が続くと、私は会の予定時間を大幅に超過させてしまうという迷議長ぶりであり、副幹事長に支えられてなんとか大役を努めている。迷議長を卒業できるように努力していきたいと考えているが、なによりも会員からの温かい支援があってこそ役割が果たせると思っている。

■ JIA 加入について

建築界は社会的信頼を失う事態が次々起こり混迷しており、広く社会から建築家の職能への期待が一層高まっている。職能団体である JIA に加入している意義はこれまで以上に大きい。また会員にとって JIA は会員交流などを通じて多様な興味を満たすことのできる団体である。

〈(株)山下設計〉

意見交換の場



関東甲信越支部
副支部長

野生司 義光

私は前任の松原支部長の時代に、常任幹事を仰せつかって、本年度から本部理事および関東甲信越支部の副支部長を兼任しております野生司です。おもに教育と地域会を担当しておりますが、教育に関しては各委員会にお任せしております。地域会は東京に新地域会を立ち上げるべく前任の中山前副支部長と一緒に活動をしてまいりました。現在 3 月末に東京に 11 の地域会が立ち上がりますると東京の全域をほぼカバーできるようになると思います。そうなりますと、「JIA 東京」のような東京の地域会、全体ををまとめるくくりも必要かと思っています。そしてゆくゆくは、他の全国の地域会と同じように東京の会員全員がどこかの地域会に属するようにしたいと思っています。そうすることによって、全国単一の組織が草の根から一つになることが出来ると思います。

私自身も文京地域会を立ち上げまして、代表に菊竹清訓先生をお迎えして、副代表に岡田新一先生、栗生明先生にお引き受け頂き、アーキテクトファイブの堀越英嗣先生、アトリエ天工人の山下保博先生などに幹事になって頂き、最近では、東大の香山壽夫先生にもメンバーになって頂きました。

若い会員からは、まるで教科書に出てくる方と、じかにお会いして話が出来ることがうれしいと言っております。そのような方々と意見交換が出来ることは、日本建築家協会の地域会に入会すること、大変なメリットだと会員の皆様が思っただけのはずで、まだ、地域会に入会していない方どうぞこの機会にご入会ください。

〈(株)野生司環境設計〉

支部・地域会をプラットフォームに

関東甲信越支部副支部長 東條 隆郎



JIAの活動は、建築家という職能理念に基づきその資質向上とともに、社会貢献を目的としています。そのJIA活動の大きな柱の一つが地域会活動です。所属する建築家がJIA支部・地域会をプラットフォームとして現在様々な活発な活動を行なっています。会員および賛助会員相互の交流による研鑽や地域社会へのかかわりの中で、常に「建築家」という職能の有り様を社会に対してアピールし理解をしてもらうこと、社会に対して貢献をしていくことが大切であると思います。現在「地球温暖化」「ヒートアイランド」「砂漠化」などの地球環境の問題が方々で取り上げられています。私たちが携わっている「建築」は膨大

なエネルギーを消費する行為であり深くこの地球環境問題にかかわっています。また、同様に地域の様々な景観や環境とも大きくかかわっているわけで、「建築家」としての役割がさらに重要性を増してきている時期に来ています。

1月19日に関東甲信越支部の「新春の集い」、1月末神奈川地域会主催の「新春の集い」に参加しました。この二つの集まりに参加し感じたことは、参加の会員、賛助会会員の参加者数が多かったことと、二次会まで多くの方々が参加し大いに語らい交流し非常に活気があった「集い」であったということです。また、特に神奈川では21人の新入会員のうち8人の参加がありJIA活動の将来を感じさせる熱気が伝わってきました。やはり、支部・地域会が元気であること、このことがJIA活動の基本であるということはこの二つの「集い」に参加して痛感しました。

〈(株)三菱地所設計〉

美しい日本の将来

関東甲信越支部副支部長 西勝 郁郎



ノーベル文学賞授与式で、川端康成さんが「美しい日本の私」と題する記念講演の話をして20数年後、同じ壇上に立った大江健三郎さんは、そのタイトルを「あいまいな日本の私」とし、その中で川端講演を「きわめて美しく、またきわめてあいまいなもの」と評して、過去に刻まれた日本の記憶を回顧した。

それから10数年、今や「美しい」のキーワードは、政治的にも国を挙げて用いられているわけだが、何を「美しい」と見るかは十人十色である。確かに建築家は、日常の或いは過去や未来の建築や都市、まち並みを「より美しく」と意識して日夜探求しているわけなのだが今もって明確な解を導き出していないような気がする。

ないような気がする。

さらに気になることは、JIAは今、財政問題など避けて通れない難題に直面しているが、会の本質的な理念や目的について活動が有効に機能しているのだろうか？ 色々と思慮する。私は将来を展望した時、若い会員の増強と育成を地道に行なうことが最も近道であると考えます。建築家の粗製濫造を懸念するむきもあるが、会員外で勝手放題の活動を放置するよりも、共に活動する方がベターであろう。昨年時点の支部の会員構成を見ても、45歳未満が9.38%、一方60歳以上が38.26%と待ったなしの状況が見てとれる。

持続可能な美しい社会の実現のためにも、あいまいでなく信念を持って経験豊富な先輩方の精神の継承を委員会、部会、地域会活動を通して若手建築家の育成を実現したいものである。

〈一級建築士事務所・西勝建築設計 主宰〉

まずなによりも活動を

関東甲信越支部副幹事長 森岡 茂夫



私は1988年にJIAに入会したので、もう19年目になります。入会した動機は、そろそろ独立しようと思ったのがきっかけでした。独立したら情報がなかなか得られないだろう、それに職能人としてまだまだ未熟で不安がいっぱいでした。それで、当時の所長から勧められてJIAに入会することにしたのです。その時の所長の言葉「JIAに住宅部会という住宅作家の集まりがあるからそこに入会しなさい」。入会当初はJIAが何処にあるかも分からない幽霊会員でしたが、入会数年後に所長の言葉を思い出し、機関誌に載っている外苑前に電話したのが、その後

の私の建築家人生を変えてしまったのです。それからの私にとって、JIAとは住宅部会が全てでした。住宅部会で知り合った先輩たちから建築家の職能を教わり、同世代の仲間たちと日々の仕事の情報交換を行なうことで、それまで負担だったJIAの会費がすっかり元をとってしまったのです。JIAは今、会費を半額にしたことで大変な財政危機に陥っています。1月に開かれた関東甲信越支部の会員集会や2月の臨時総会でも、会費を半額にしたことに対するさまざまな意見がありました。まずは活動ありき、そのためには活動費が不足しているのは間違いありません。しかし、会費が安いのか高いかは、あなた次第です。まずは地域会や部会のイベントに参加してみてください。きつとこのBulletin特集号の中に、JIAの入口があるはずですよ。

〈(有)アルフィ建築デザイン〉

ミッション

関東甲信越支部副幹事長 寺本 晰子



一昨年のイスタンブール大会のUIA理事会では、「女性建築家たちが大会にも出ていない国々の問題に対応すべき」と仏国女

性理事から問題提起されて、前UIA会長はじめ参加各国の共感の拍手を浴びていました。今、JIA正会員数4799人(2007年2月現在)、その中で女性会員は何人いるのでしょうか？なんと、3%です。JIAも、建築界で働く女性たち(男性もですが)のより良い職域環境に、その周りの社会に目を向けて、支援の道筋を示していきたいものです。〈(株)マ アーキテクチャー〉

利用できる施設は？

1. ホール・会議室



←建築家会館
大ホール
→JIA ギャラリー

JIA 館、建築家会館（本館）にはいくつかのホール・会議室があり、会員の使用が可能です。

JIA 館5階：応接室（10名）、会議室A（20名）、会議室C（12名）。これらはJIAが管理しており全て無料。委員会・部会の使用が優先ですが、空いていれば会員による他使用も可能です。

他：建築家会館大ホール、JIA ギャラリー（小ホール）、建築家会館3階大会議室、同小会議室。（株）建築家会館の所有・管理のため有料。ホール・時間帯などによって異なりますが、建築家会館大ホール13～17時で14,000円。

プロジェクターなど備品はJIA事務局より無料で貸出しています。申込、問合せはJIA事務局まで。

2. 販売所

JIA 出版物、契約書などを事務局（9時～17時半）で販売しています。会員には、後払いの郵送も受付けています。



写真：森岡茂夫

事務局員の紹介

1. 菊地 良一（きくち りょういち）

役職：事務局長

担当：支部事務全般、役員会、地域サミット、各委

員会（総務・事業・広報・交流・学生デザイン・アーバントリップ・支部実務および認定評議会）、部会（デザイン・メンテナンス・情報開発・ミケランジェロ・建築交流）、本部関連（建設産業・全国学生卒業設計）、文化庁海外留学制度

◎「旧家協会から団体事務に従事。会および組織の活動に際し、基本的には個人の資質によるところが大きいので、会員相互のコミュニケーションやコラボレーションの橋渡しができればと思っています。」事務局員の中でも、数少ない建築学科出身です。

2. 清宮 美津江（きよみや みつえ）

役職：主任

担当：経理、保存問題委員会

◎「仕事でも何でも楽しみながらやる！そんなふうにするようにしていたら本当になったかも。」こちらも元気を頂けます！



3. 建築クラブ（通称：バー）



2007年3月をもって、39年の歴史に幕を下ろします。最後になってしまったバーテンダーの方にお話を頂きました。

「前川國男先生その他有志でお金を出しあい、1968年進来廉（すすきれん）さんが、コンベにより建築家会館と建築クラブ（クラブの方には家はつきません）を同時に設立。当時、前川先生はカウンターから向っていつも右側から3番目くらいに座っていて、連日大賑わいだったらしいです。当時のままのカウンター、椅子はしっかりした作りで、現在でも評判良く、椅子の塗装が剥げてはいますが丈夫です。カウンター上にあるクラブの花は、外苑前のお花屋さんが生けにくる、クラブのシンボルの一つです。」

ちなみに、私；佐々は7代目です。建築のことはわからない私が入社して約4年になります。当時は顔と名前を覚えるのが精一杯で、自然に会話ができるようになったのは1年経過したくらいだったと思います。住宅問題などでメディア媒体に出ている人がいらして、話の内容に「なるほど……」と思い、勉強になったりしました。プライベートな会話で場を和ませる方もいます。寡黙な方も。個性的な方が多いでしょうか。ほとんどの方が紳士的です。賛否両論ありますが、3月一杯で休業になります。」

（談：佐々 香苗）

3. 北沢 将司（きたざわ しょうじ）

担当：JIA トーク、本部関連（環境行動委員会、CPD 評議会、まちづくりメルマガ WG、ハウジング・フィジックス・デザイン研究会）、会員情報、局内パソコン管理

◎「入社3年目、27歳。書類作成から観光バスの手配まで何でもやります！まだ至らぬ点が多々ありますが、会員奉仕を第一として頑張りますので、皆様、ご指導のほどお願い申し上げます。」と若くて力強い言葉を頂きました。

4. 野口 幸子（のぐち ゆきこ）

担当：建築相談委員会、首都圏建築相談室
本部関連書籍

■本部事務局の紹介

専務理事：柳澤 瑋忠／事務局長：原田 譲治

常任参与：安田 雅子／非常勤参与：高野 孝次郎

主任：横田 雅之

事務局員：渡辺 耕司、野村 美和、岡田 曜子、糸谷 佳彦
宮下 けい子、中嶋 佳子



「ほっと、一息！」

JIA と関係はありませんが、JIA 館G階にあるフレンチレストランの紹介です。

■レストラン「Le Gaulois ル・ゴロワ」

営業：12～13時半、18～21時（共にLO）

月曜日休み（要予約 Tel: 03-3404-0820）

料理：プリフィクスコースでランチ2,940円～（税・サ込）

ディナー6,400円～（税込・サ別）



「北海道から全ての食材を仕入れ、日本人の胃にも優しいような、野菜を主体とする本格フレンチ料理です。目の届く範囲で料理をお出ししたいので30席のみになります。テーブル、椅子は馴染みのお客様に特別に作って頂きました」とのこと。ゆったりと味わってほしいというシェフの暖かい思いが伝わってくるレストランです。遠方からわざわざいらっしゃるお客様も多くて、連日満席。一度、足を運んでみては如何でしょうか。

JIA のサービス

JIA では会員の活動の場を提供するだけでなく、会員および一般の方を対象とした各種サービスを用意しています。その代表的な内容を紹介しします。

1. **Bulletin の発行**——只今ご覧いただいている本紙は、2 ヶ月ごとの偶数月に会員の皆様・関係教育、行政機関などにお届けしています。各号で特集記事・JIA 報告の他、保存・教育・地域会だよりなどのテーマに合わせてその分野の方に執筆・投稿いただいています。また会員の方々のご意見・活動報告なども掲載していますので、建築界の「今」を感じていただきたいと思います。また、投稿もお待ちしています。

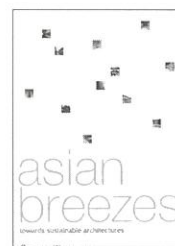
2. **ホームページの公開**——JIA のホームページにアクセスいただくと、建築にかかわる最新の情報を幅広く効率的に得られ、また楽しむことが出来ます。詳しくは巻末のホームページ紹介欄をご覧ください。また、インターネットを通じて「メールマガジン（メルマガ）」を送信しています。是非、皆様のメールアドレスを JIA に登録戴きメルマガを活用して下さい。

■ JIA 会員用頒布書式、仕様書等

書式名	価格
JIA 建築設計・監理業務委託契約書（小規模建築向け）	1,000 円 * 写真有り
5 号様式 業務受託書	800 円
6 号様式 業務委託書	800 円
7 号様式 工事費請求額承認書	800 円
8 号様式 現場報告書	500 円
9 号様式 見積・積算用紙	500 円
12 号様式 業務記録	1,000 円
13 号様式 請求書	800 円
14 号様式 領収書	800 円
四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書等	
建築設計・監理業務委託契約書	525 円
建築設計業務委託契約書	315 円
建築監理業務委託契約書	210 円
建築工事共通仕様書 2007 年度版	5,500 円 * 2007 年 2 月 20 日発行
建築設備工事共通仕様書 2007 年度版	5,500 円 * 2007 年 2 月 20 日発行
特記仕様書ガイドブック 2006 年度版	3,000 円 * 近畿支部発行
特記仕様書 2005 年度版 CAD データ付き	5,500 円 * 大阪府建築家協同組合発行。JIA 発行の各仕様書に準拠
工事請負契約約款	230 円
JIA ロゴマークシール（1 セット 50 シール）	1,000 円

■ JIA レポート、他書籍

書式名	価格
建築家の本 まちへ	2,310 円 * 新刊、編集：近畿支部、出版：日刊建設新聞社
Asian Breezes	2,000 円
環境建築読本	2,000 円 * 編集：環境行動委員会
マンション設備の改修——解説と改修事例	2,100 円
新・マンション百科（建築家によるトータルメンテナンス）	2,310 円 * 出版：鹿島出版
住まいのリフォーム事例集	2,520 円 * 出版：鹿島出版
住まいをつくる相談室	2,310 円 * 編集：JIA 関東甲信越支部／出版：新刊：株式会社井上書院
欠陥住宅の見抜き方・直し方 77 のポイント	1,680 円 * 編集：JIA 関東甲信越支部建築相談委員会／出版：同文館出版株式会社



右) “asian breezes”

A 5 版、185 頁

2005 年に発行されたサステイナブル建築特集。日本に限らずアジア全般の建物が個人住宅からビルまで、空気、光、水、材料と資源、都市と田園のデザインと 5 つの項目で紹介されています。全編英語ですが、写真、図面などが多く、眺めているだけでも楽しめます。

3. JIA の出版物——JIA では、各種出版物を発行しています。

ホームページからもご覧いただけますが、以下の表に纏めました。是非、周辺の建築視察ツアーを兼ねて来館いただき、現物を手にとり、ご購入いただきたいと思います。他にも近畿支部取り扱いなどあります。詳しくは各 HP をご覧ください。

なお、価格は会員向けであり、基本的に税込表示にしております。

4. その他——JIA 建築家賠償責任保険（ケンパイ）および JIA

グループ保険の取扱も下記にて行なっています。「まさか！」の時に安心できる保険の利用をご検討下さい。取扱代理店は、下記の通りです。

(株)建築家会館 Tel: 03-3401-6281 / Fax: 03-3401-8010

建築審議会の答申及びそれに対する本会見解	1,000 円
アメリカ合衆国における公共及び民間の建設契約	1,000 円
JIA 調査委員会報告書	3,000 円
CAD データ受渡しのガイドライン	3,000 円
よい建築・よい設計者を求めるために	1,500 円
設計情報伝達の向上を目指して	
——実施設計図から施工図への展開	1,500 円
これでいいのか設計情報・パート II	
——これからの設計情報伝達・実践に向けて	2,500 円
JIA-PM ガイドライン	1,500 円
JIA-PM マニュアル	2,000 円
JIA-CM ガイドライン	1,000 円
JIA-CM フォローアップ・中間報告	1,000 円
QBS（資質評価）ガイドブック	1,000 円
DB・CM 等発注・契約方式に関する調査報告書	2,000 円
顧客満足度と建築家の挑戦	
——JIA 顧客満足度調査レポート	1,500 円
入札に代わる設計者選定方式の提言	
——質の高い公共建築をつくるために	1,000 円
建築家の業務・報酬（改訂版）	2,000 円
建築の設計・監理に関わる法的責任と権利	500 円
ハートビルハンドブック	2,500 円
建築家のための耐震設計教本	* 出版：彰国社
建築家クライアントのための耐震補強セミナー	5,000 円
サステイナブルデザインガイド 2	3,150 円
シックハウスがわかる 現場から学ぶ本質と対策	2,000 円
Sports facilities in cold and snow-covered area	3,800 円 * 送料含む
建築家がつくる家 全 3 巻	3,885 円 * 出版：彰国社
DA 建築図集	* 出版：彰国社
DA 建築図集「学校 I」——小学校・小中学校——	3,780 円
他	各々
建築家会館叢書	* 出版：建築家会館
素描・太田和夫	1,800 円
素描・松村正恒	1,000 円
素描・渡辺力	1,200 円
浜口隆一＝ヒューマンイズムの建築・再論	1,000 円
眼の力・平山忠治	1,200 円
都市の領域＝高山英華の仕事	1,200 円
建築計画学の創成＝吉武泰水	1,500 円

建築家写真倶楽部

代表：兼松 紘一郎

連絡先：大隈哲（日建設計）

E-mail: ookuma@nikken.co.jp

会合：ほぼ月 1 回／会員：JIA 会員以外の方も多い



■建築家写真倶楽部は、写真という視点から建築や都市を考え、建築写真のアーカイブなどその周辺を検討することにより、建築文化の真の発展に貢献しようという趣旨により、規約を作り 2002 年 4 月に設立した。

発端は 5 年前、飲み屋で建築写真談義になったときだ。僕たち建築家の創った作品(?)は、雑誌などのメディアによって建築界や社会に伝わり、また建築写真家の撮ったその写真に即発されて建築を考える。時を経た建築の修復をするときには、図面と共に写真の存在も大切だ。その写真のアーカイブスの問題もある。

即座に建築家による「写真倶楽部」をつくらうということになった。倶楽部と名付けたのは、アカデミックな「建築文化の真の発展に貢献しよう」というお題目と共に、写真の好きな建築関係者が集まって、街に出て写真を撮り歩いたり、カメラ談義をやる楽しい倶楽部にしたいという目論見があったからだ。

メンバーには、JIA に所属する建築家だけでなく、建築歴史学者や建築写真家、それに雑誌の編集者や賛助会員が加わり、写真に興味を持つ大学生がフレンズのような形で参加している。

昨年のアーキテツ・ガーデンでは、建築写真家の巨匠村井修さんと、メンバーでもある林昌二さん、聞き手として部会長が加わり鼎談を行ない、同時に「雑誌に載らない建築家の家」と題した自宅を撮ったパネル展を行なった。是非大勢の写真好きの方々に参加いただきたい。

〈兼松紘一郎／兼松設計〉

広報委員募集！

これからの JIA は広報がとても重要なポイントになります。どんなにいい活動をしていても知られていなければ意味が半減してしまいます。支部広報では今後、特に次のことを整備していきたいと思っています。

■一般への広報

建築家の職能を正しく広く知ってもらうことが何より重要なことです。

イベント告知などを中心に、既存メディアとの連携や WEB サイトの充実などを強化整備していく予定です。

■本部・支部・地域会間の連携

JIA としての組織だった広報を強化すると共に、会員一人ひとりの声を取り上げ、情報を共有していきたいと思っています。

各員会や地域会に広報担当者を置き、さらに支部広報委員に選出していただければ、より緊密な広報体制が整います。

ぜひ建築家の職能の確立と地位の向上のために共に汗をかきませんか！

自薦他薦問わず、興味のあるかたはご連絡ください。

■連絡先：JIA 関東甲信越支部事務局 菊地
info@jia-kanto.org

広報委員長：中村高淑 (koho@jia-kanto.org)

広告募集

広報委員会では、支部会報誌 Bulletin への 2007 年度広告掲載申込を募集しております。

Bulletin は、1987 年以来、JIA 関東甲信越支部の支部会報誌として、支部会員建築家、関係官庁、団体などに直接郵送する方法で、2007 年度は年 6 回、毎号 3000 部を発行する予定です。

この会報誌の誌面を利用して、皆様の新しい技術情報や製品情報、独自の技術思想や製品開発にたいする考え方、その他、建築家に提供するサービスの紹介などを掲載し、建築家への認知度を高める場としてご利用ください。

■広告掲載料■

掲載スペース	サイズ	料金
表 2 (表紙裏)	1 ページ	¥ 150,000 -
	1 ページ	¥ 100,000 -
表 3 (裏表紙の裏面)	半ページ	¥ 60,000 -
	1/3 ページ	¥ 40,000 -
表 4 (裏表紙)	1 ページ (カラー)	¥ 200,000 -
差込み (持ち込み)	A3/A4	¥ 50,000 - (非会員：¥ 80,000)

関東甲信越支部ホームページの紹介

ホームページワーキング主査・支部広報副委員長
近藤 剛啓

関東甲信越支部では、会員相互の情報交換、一般社会への情報発信のため、即時性を活かした媒体として、会員向けサイトと一般向けサイト「建築online」の運営、会員向けのメールマガジンの発信をしています。

■会員向けサイト

<http://www.jia-kanto.org/members/index.html>

- ・支部のニュースやイベント・セミナー情報、国土交通省などの情報、JIA 本部からのお知らせ、支部の委員会・部会、地域会・賛助会、会員からのお知らせを日々更新し掲載しています。掲載希望の方は、「ホームページへの情報掲載について」をご覧ください。

<http://www.jia-kanto.org/members/public/index.html>

- ・支部サーバーを活用して自主管理サイトを開設できます。開設希望の方は、「自主管理サイト開設とメールアドレス取得について」をご覧ください。

<http://www.jia-kanto.org/members/public/index.html>

- ・4月よりバナー広告をトップページに掲載いたします。交流委員会賛助会員を中心に広告を募集いたします。

■一般向けサイト「建築online」

<http://www.jia-kanto.org>

- ・一般の方々向けに建築や建築家についての情報を紹介しています。
- ・「今月の建物」では会員の建築作品を紹介しています。
<http://www.jia-kanto.org/members/public/index.html>
- ・「建築ギャラリー」では写真家と建築写真を紹介しています。
<http://www.jia-kanto.org/online/architects/index.html>
- ・「ブックガイド」では建築家による本の紹介をしています。
http://www.jia-kanto.org/online/book_guide/index.html

■ 会員向けのメールマガジン

- ・JIA や建築に関わる情報をいち早くお知らせしますので、ご希望の方はメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.jia-kanto.org/members>

情報の発信、作品の投稿など皆様の参加をお待ちしています。

●アーキテクツギャラリー●

2006年度より若手会員の方々をはじめ、多くの会員の方々に作品発表の場を提供する展示会（アーキテクツギャラリー）を始め、10月から12月の3ヶ月間、開催致しました。2007年度も、4月から6月の3ヶ月間、10月から12月の3ヶ月間の計6ヶ月間の開催を企画しております。是非ご出展いただき、交流の場としてもご活用下さい。

参加要項など詳細につきましては下記事務局までご連絡ください。

社団法人 日本建築家協会
アーキテクツギャラリー担当：渡邊
Tel: 03-3408-7125 Fax: 03-3408-7129
E-mail: kwatanabe@jia.or.jp

編集後記

■年度末のお忙しい中、雨あられのような原稿催促で、執筆者の方が泣き泣き原稿を書いていただいたお陰で、何とか特集号が間に合いました。この場をお借りして、御礼申し上げます。また、仕事の合間を縫って紙面構成を考え、原稿の依頼をし、取材まで買って出ていただいた広報委員の行動力には、改めてびっくりしました。ありがとうございます。

これで私は、晴れて編集長を退任できます。女性編集長となります鈴木利美さんにバトンタッチいたしますので、今まで以上のご協力をよろしくお願いいたします。

4年間の広報活動は、短いような長いような時間でしたが、森岡茂夫前編集長から引継ぎしました「顔の見える情報誌」を目指して、取材や連載記事などに取り組んできました。果たして結果はどうだったのだろうかと自問していますが、これからは、違った視点で会報誌の魅力を切り開いていただけると確信しています。それは、広報委員会はお互いがよく顔が見え、お酒も良く飲みますので、結構時間的に厳しいですが楽しい会だから、めげずに元気がでるからで、これからも変わらない伝統のように感じています。

最後に、原稿を書いていただきました多くの方々に、裏表紙広告を出していただいています(株)INAXと(株)ヒガノ、そして差込広告を出していただいた賛助会員のみなさま、この場をお借りして御礼申し上げます。これからも、変わらぬご支援をお願いいたします。 <櫻田 修三>

編集：社団法人 日本建築家協会

関東甲信越支部広報委員会

委員長：中村 高淑

副委員長：近藤 剛啓・櫻田 修三

委員：大岩 義充・神田 雅子・久保 宏二・倉島 和弥・近藤 弘文
鈴木 利美・寺本 晰子・林 秀司・古池 廣行・本田 宣之
山本 信治

編集長：櫻田 修三

編集委員：大岩 義充・神田 雅子・久保 宏二・倉島 和弥・鈴木 利美
寺本 晰子・山本 信治・菊地 良一

発行人：菊地 良一

発行所：社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館

TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294

デザイン：山口尊敏/印刷：サンデー印刷社

©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2007

JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧

(社)日本建築家協会(JIA) <http://www.jia.or.jp/>

建築家online(一般向け) <http://www.jia-kanto.org/>

JIA 関東甲信越支部(会員向け)

<http://www.jia-kanto.org/members/>

定価 300 円(購読料は会費に含まれています)

JIA 館はどこにあるの？

■まずは、基本的な情報です。

社団法人 日本建築家協会 関東・甲信越支部

住所：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18

Tel: 03-3408-8281 Fax: 03-3408-8294

ホームページ：http://www.jia-kanto.org/members/

(このページから支部へのホームページに入れます)

■建物への行き方を紹介します。

東京メトロ・銀座線「外苑前」、JR 中央線「千駄ヶ谷」、JR 山手線「原宿」の各駅から徒歩圏にあり、便利なところにあります。一番近い駅は「外苑前」。駅から約 550m (徒歩 7、8 分)。裏道を歩けば、道すがらファッションブティック・美容院・飲食店・画廊・寺社・住宅……各種用途建築のショールーム的のストリートです。ちょっと時間のある方：JIA 館より直線で半径 1km の範囲には、話題の建築がいっぱいです。キラー通り沿いには、1990 年前後のバブル期の建築：コンセプチュアルでダイナミックな姿を楽しむことが出来ます。また少し足を伸ばし表参道を歩けば、今の建築：個性的であり繊細かつ大胆な姿が楽しめます。(右の地図を参照下さい。記載の建築以外にも多々素晴らしい建物がありますが、今回はその一部を紹介させていただきました)

JIA 館ってどんな建物？

■各階の構成は次のようになっています。

GF：キラー通り（外苑西通り）からのエントランス

フレンチレストラン「Le Gaulois」(p.20 参照)

1F：外苑前から「裏道」の JIA 館エントランス、

JIA ギャラリー（企画展などの開催場所です）

建築家会館本館エントランス

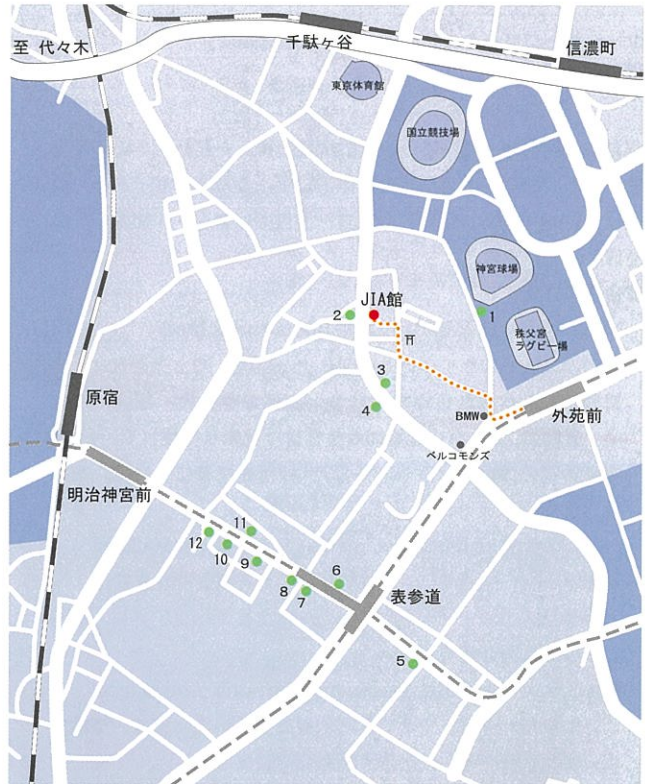
4F：本部・支部の事務局（書籍などの各種販売所もここです）

5F：JIA 活動の場となる会議室・応接室

■すぐ隣に建築家会館が併設されています。

JIA の活動の場として、イベント・会議など一体的に使用されています。(開催場所が「JIA 館」か「建築家会館」か注意が必要です)

- 1ーテピア (1989) ●横総合計画事務所
- 2ーテラツァ (1991) ●竹山聖
- 3ー塔の家 (1966) ●東孝光建築研究所
- 4ーワタリウム (1990) ●マリオ・ボッタ
- 5ープラダブティック青山店 (2003)
 - ヘルツォーク & ド・ムーロン、竹中工務店
- 6ーONE 表参道 (2003) ●隈研吾建築都市設計事務所
- 7ーハナエ モリビル (1978)
 - 丹下健三・都市・建築設計研究所
- 8ートツ表参道ビル (2004) ●伊東豊雄建築設計事務所
- 9ールイ・ヴィトン館 (2002) ●青木淳建築計画事務所
- 10ー日本看護協会ビル (2004) ●黒川紀章建築都市設計事務所
- 11ー表参道ヒルズ (2006)
 - 安藤忠雄建築研究所・森ビル設計 JV
- 12ーディオール表参道 (2003) ●妹島和世十西沢立衛/SANAA



写真：山本信治